

平成29年3月21日公表

平成28年度 農林水産情報交流ネットワーク事業 全国調査 食料・農業及び水産業に関する意識・意向調査

本調査は、漁業経営に関する意識、水産物の消費についての意識・意向、農畜水産物及び食品等の入出荷記録の保存の取組状況等について、農林水産情報交流ネットワーク事業の消費者モニター、農業者モニター、漁業者モニター及び流通加工業者モニター（木材関係を除く。）を対象に実施したものであり、消費者モニター889人、農業者モニター1,115人、漁業者モニター295人、流通加工業者モニター531人の計2,830人から回答を得た結果である。

【調査結果の概要】

1 消費者モニターに対する調査結果

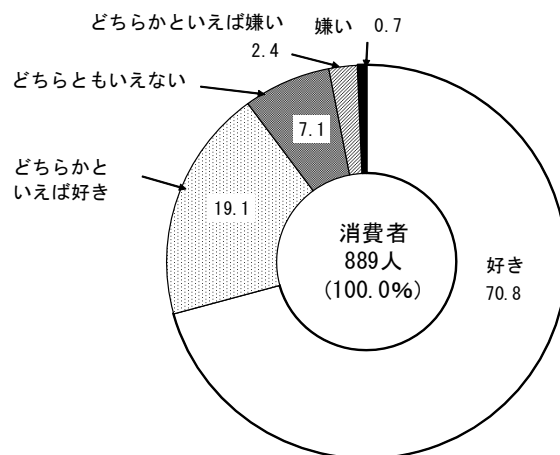
ー 魚介類を食べることが「好き」及び「どちらかといえば好き」が9割、魚介類を食べる頻度は「週に2～3日」が5割、子どもの頃と比べて食べる頻度は「減った」が4割ー

(1) 魚介類の消費について

ア 魚介類の好き嫌いについて

魚介類を食べることは、「好き」と回答した割合は70.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば好き」（19.1%）、「どちらともいえない」（7.1%）の順であった。

図1-1 魚介類の好き嫌いについて



※ 表示単位未満を四捨五入したため、計と内訳の積み上げは一致しない場合がある（以下同じ。）。

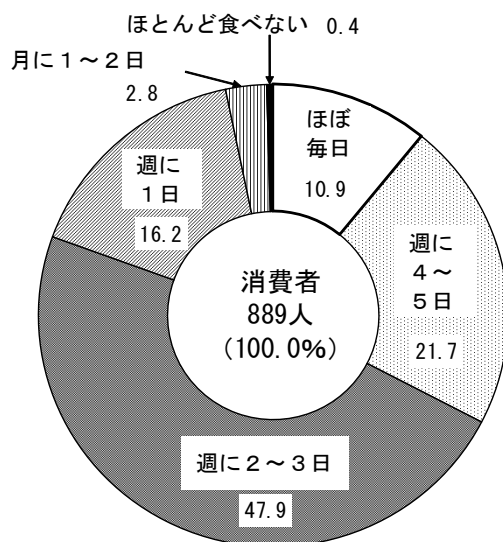
本資料は、農林水産省ホームページの「統計情報」から御覧いただけます。

【<http://www.maff.go.jp/j/tokei/>】

イ 魚介類を食べる頻度について

魚介類を食べる頻度は、「週に2～3日」と回答した割合は47.9%と最も高く、次いで「週に4～5日」(21.7%)、「週に1日」(16.2%)、「ほぼ毎日」(10.9%)の順であった。

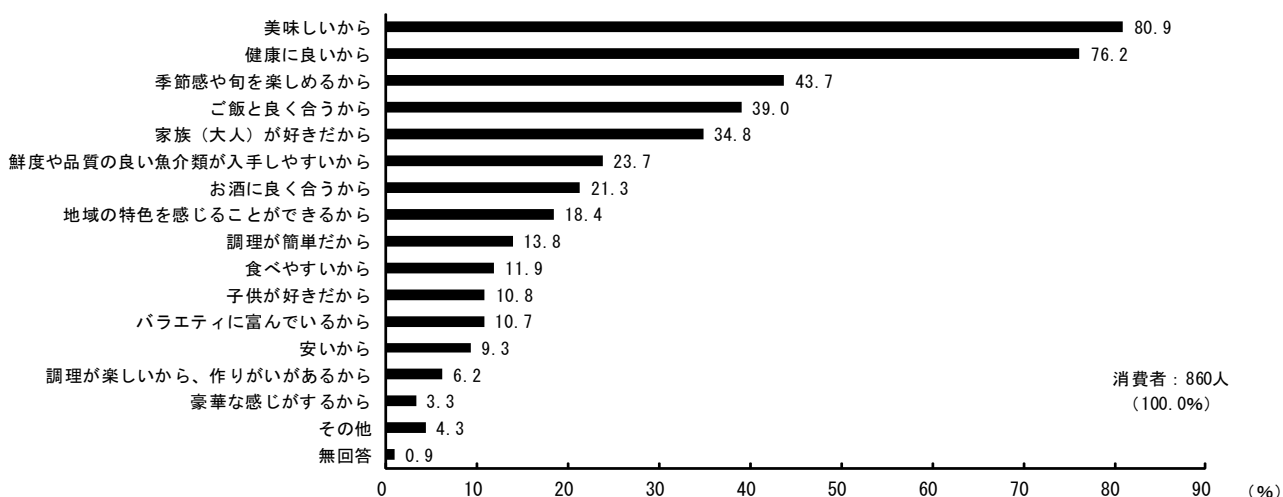
図1-2 魚介類を食べる頻度



ウ 魚介類をよく食べる理由

魚介類を食べる頻度が、「週1日以上」と回答した者（頻度が「ほぼ毎日」又は「週に4～5日」、「週に2～3日」、「週に1日」と回答した者。以下同じ。）において、魚介類をよく食べる理由は、「美味しいから」と回答した割合が80.9%と最も高く、次いで「健康に良いから」(76.2%)、「季節感や旬を楽しめるから」(43.7%)、「ご飯と良く合うから」(39.0%)の順であった。

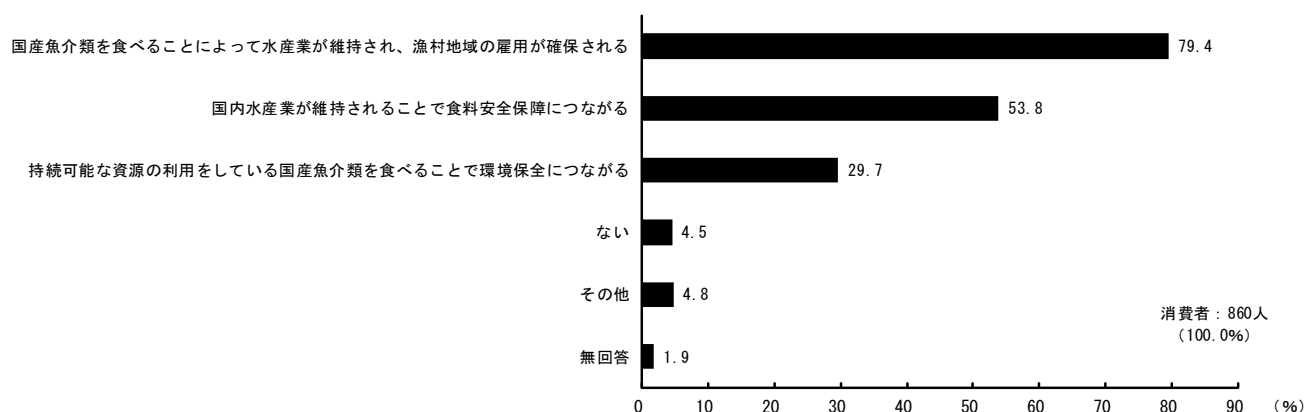
図1-3 魚介類をよく食べる理由（複数回答）



エ 国産魚介類を食べることがどのようなことにつながるか

魚介類を食べる頻度が、「週1日以上」と回答した者において、国産魚介類を食べることがどのようなことにつながるかについては、「国産魚介類を食べることによって水産業が維持され、漁村地域の雇用が確保される」と回答した割合が79.4%と最も高く、次いで「国内水産業が維持されることで食料安全保障につながる」（53.8%）、「持続可能な資源の利用をしている国産魚介類を食べることで環境保全につながる」（29.7%）の順であった。

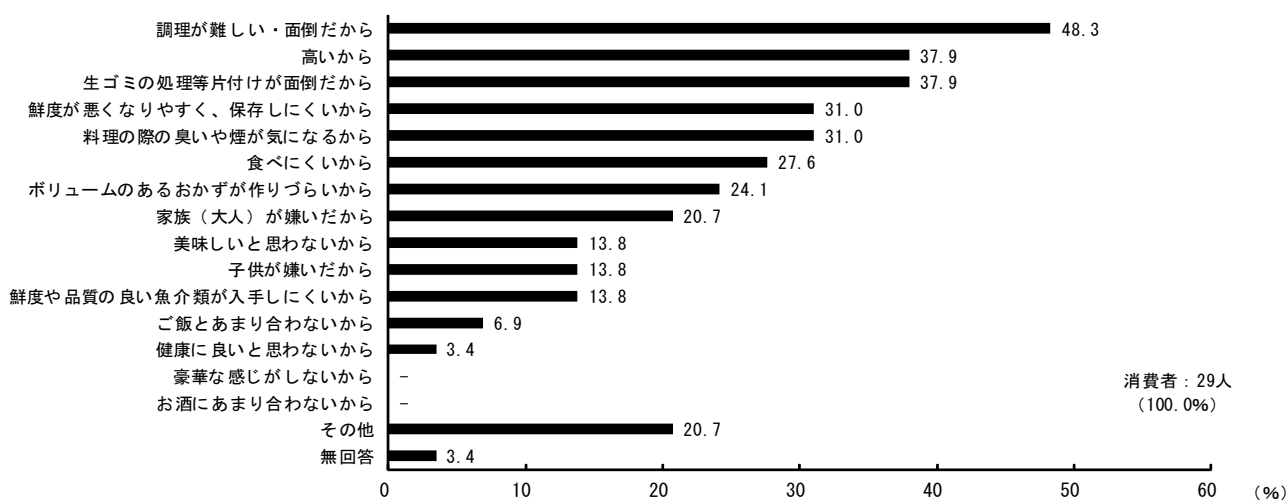
図1-4 国産魚介類を食べることがどのようなことにつながるか（複数回答）



オ 魚介類をあまり食べない理由

魚介類を食べる頻度が「月に1～2日」又は「ほとんど食べない」と回答した者において、あまり食べない理由は、「調理が難しい・面倒だから」と回答した割合が48.3%と最も高く、次いで「高いから」及び「生ゴミの処理等片付けが面倒だから」（ともに37.9%）、「鮮度が悪くなりやすく、保存しにくいから」及び「料理の際の臭いや煙が気になるから」（ともに31.0%）の順であった。

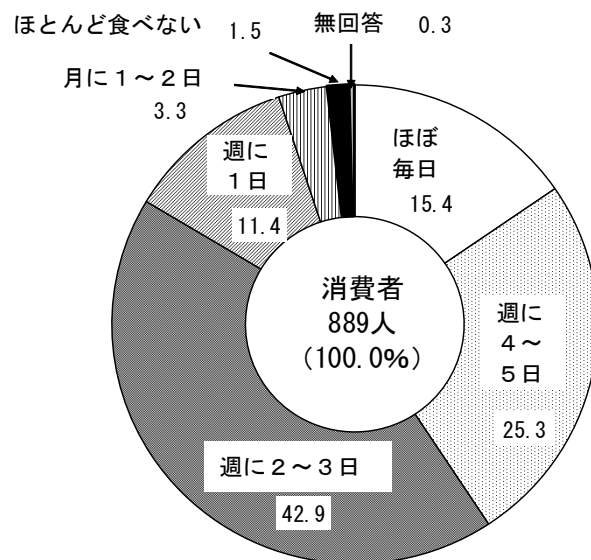
図1-5 魚介類をあまり食べない理由（複数回答）



カ 子供の頃の魚介類を食べた頻度

子供の頃に魚介類を食べた頻度は、「週に2～3日」と回答した割合が42.9%と最も高く、次いで「週に4～5日」(25.3%)、「ほぼ毎日」(15.4%)の順であった。

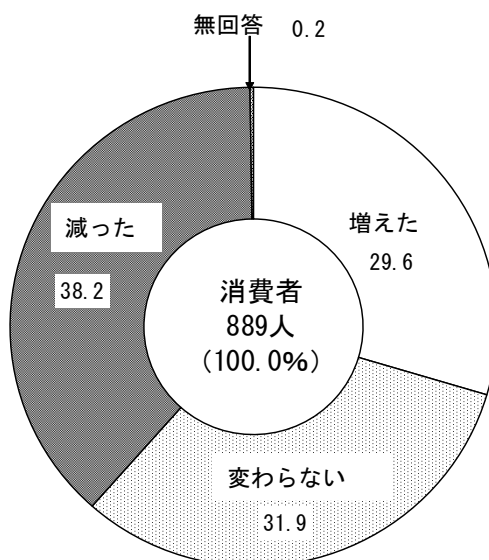
図1-6 子供の頃の魚介類を食べた頻度



キ 魚介類を食べる量の変化（子供の頃との比較）

子供の頃と比較して、魚介類を食べる量は、「減った」と回答した割合が38.2%と最も高く、次いで「変わらない」(31.9%)、「増えた」(29.6%)の順であった。

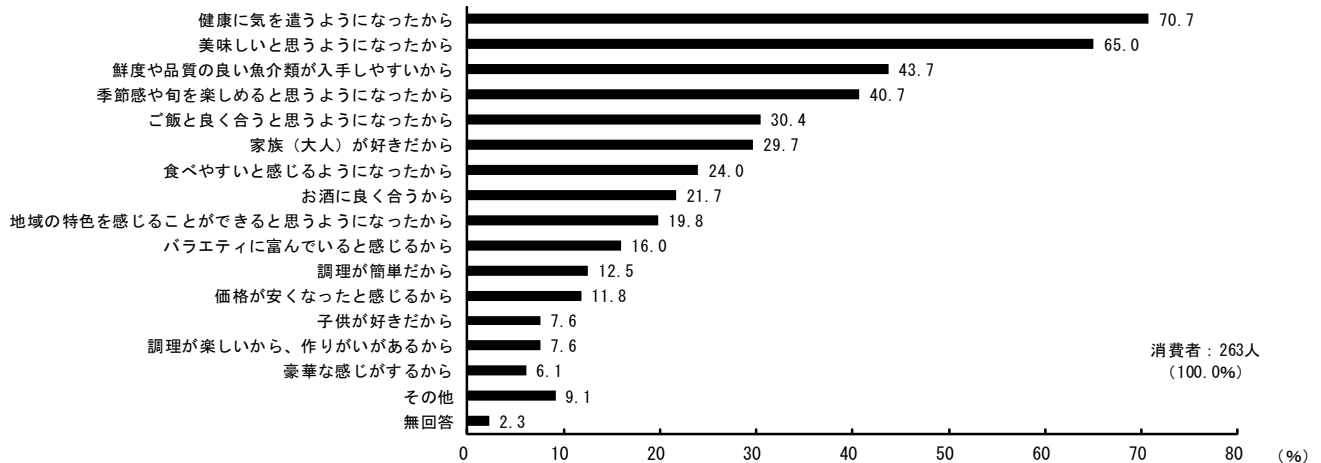
図1-7 魚介類を食べる量の変化（子供の頃との比較）



ク 食べる量が増えた理由

子供の頃と比較して、魚介類を食べる量が「増えた」と回答した者において、増えた理由は、「健康に気を遣うようになったから」と回答した割合が70.7%で最も高く、次いで「美味しいと思うようになったから」(65.0%)、「鮮度や品質の良い魚介類が入手しやすいから」(43.7%)、「季節感や旬を楽しめると思うようになったから」(40.7%)の順であった。

図1－8 食べる量が増えた理由（複数回答）

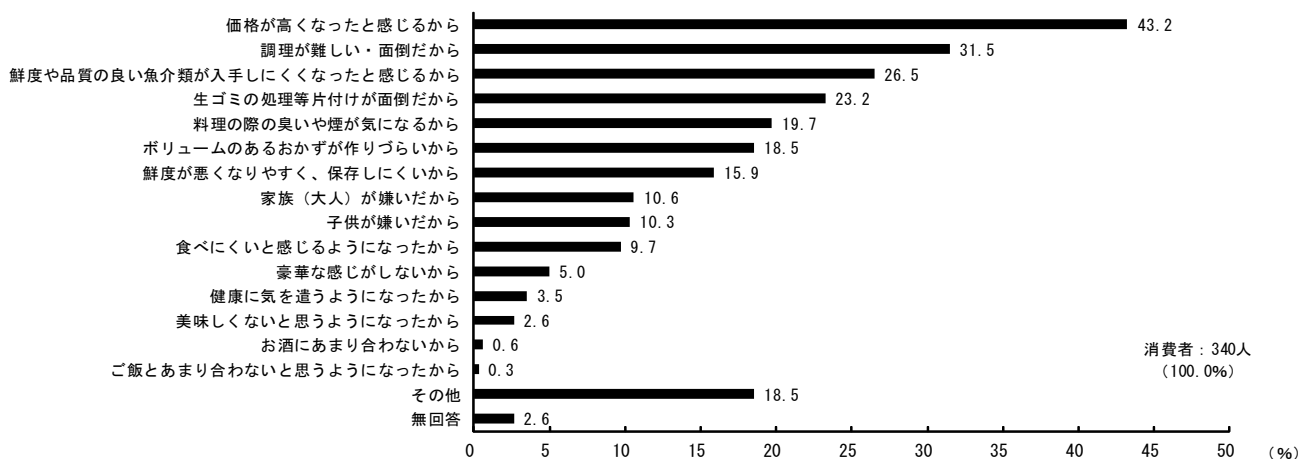


ケ 食べる量が減った理由

子供の頃と比較して、魚介類を食べる量が「減った」と回答した者において、減った理由は、「価格が高くなったと感じるから」と回答した割合が43.2%と最も高く、次いで「調理が難しい・面倒だから」(31.5%)、「鮮度や品質の良い魚介類が入手しにくくなったと感じるから」(26.5%)、「生ゴミの処理等片付けが面倒だから」(23.2%)の順であった。

なお、「その他」の主な回答としては、肉が安くなった、肉が好きだから等であった。

図1－9 食べる量が減った理由（複数回答）

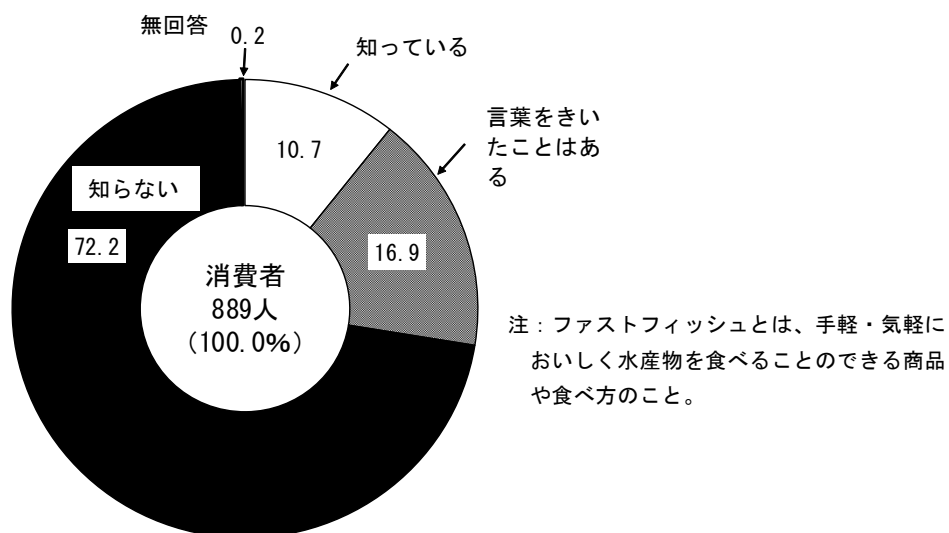


(2) ファストフィッシュについて

ア ファストフィッシュの認知度

ファストフィッシュの認知度は、「知らない」と回答した割合が72.2%と最も高く、次いで「言葉を聞いたことはある」(16.9%)、「知っている」(10.7%)の順であった。

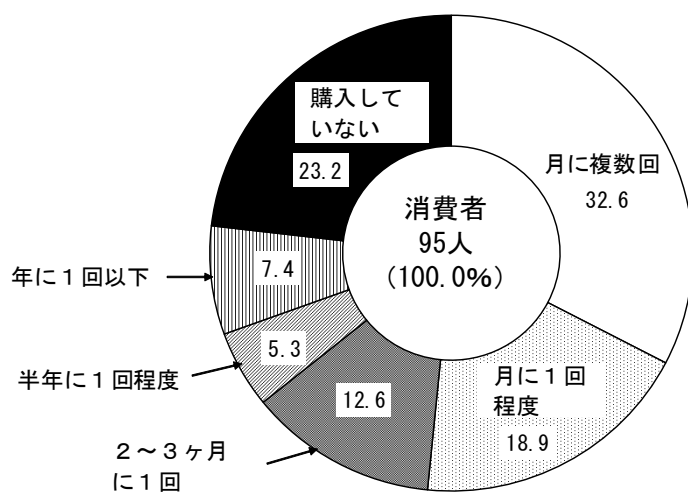
図1-10 ファストフィッシュの認知度



イ ファストフィッシュ商品を購入する頻度

ファストフィッシュを「知っている」と回答した者において、ファストフィッシュ商品を購入する頻度は、「月に複数回」と回答した割合が32.6%と最も高く、次いで「購入していない」(23.2%)、「月に1回程度」(18.9%)、「2～3ヶ月に1回」(12.6%)の順であった。

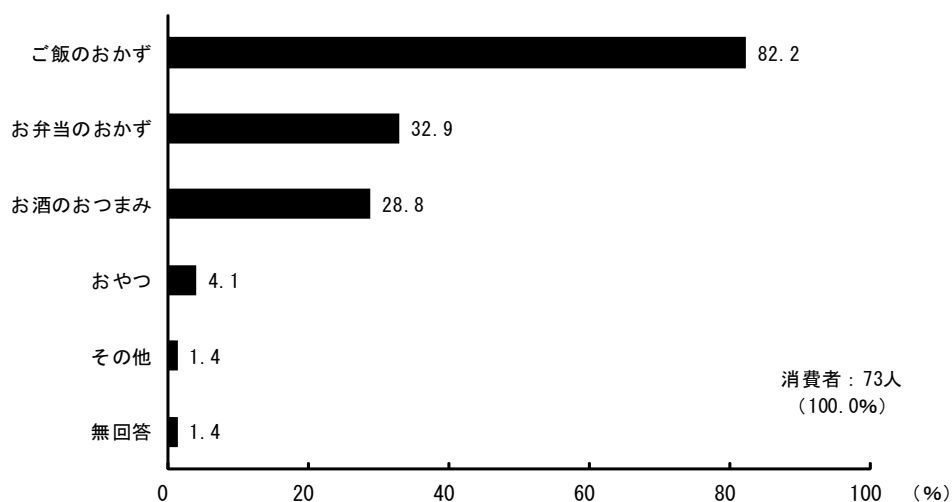
図1-11 ファストフィッシュ商品を購入する頻度



ウ ファストフィッシュ商品の用途

ファストフィッシュ商品を購入している者（ファストフィッシュ商品を「購入していない」と回答した者以外）において、ファストフィッシュ商品の用途は、「ご飯のおかず」と回答した割合が82.2%と最も高く、次いで「お弁当のおかず」（32.9%）、「お酒のおつまみ」（28.8%）の順であった。

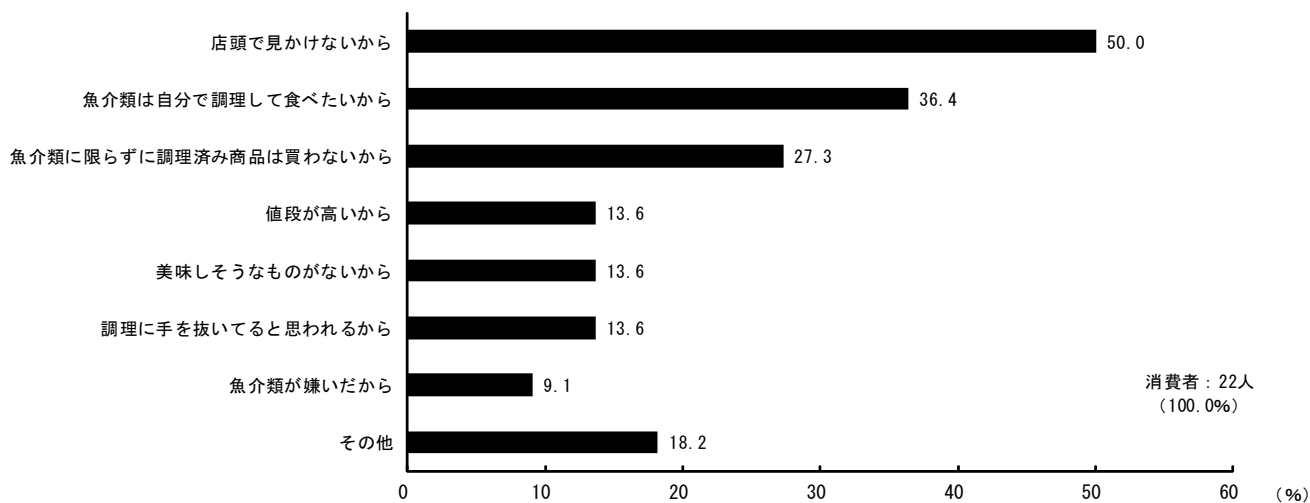
図 1-12 ファストフィッシュ商品の用途（複数回答）



エ ファストフィッシュ商品を購入しない理由

ファストフィッシュ商品を「購入していない」と回答した者において、購入しない理由は、「店頭で見かけないから」と回答した割合が50.0%と最も高く、次いで「魚介類は自分で調理して食べたいから」（36.4%）、「魚介類に限らずに調理済み商品は買わないから」（27.3%）の順であった。

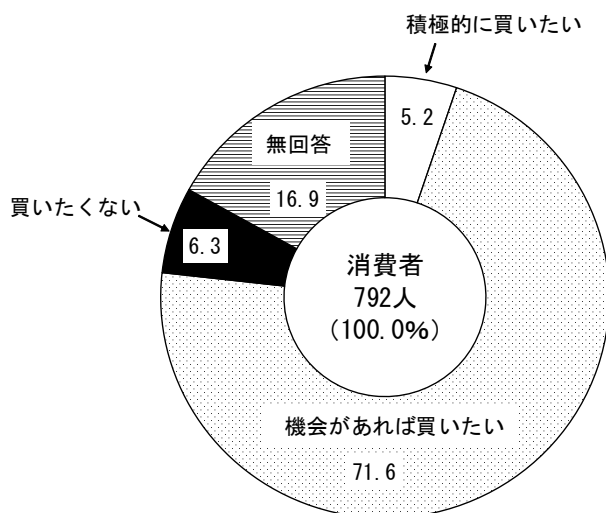
図 1-13 ファストフィッシュ商品を購入しない理由（複数回答）



オ ファストフィッシュ商品の購入意向

ファストフィッシュについて「言葉を聞いたことはある」又は「知らない」と回答した者において、ファストフィッシュ商品の購入意向は、「機会があれば買いたい」と回答した割合が71.6%と最も高く、次いで「買いたくない」(6.3%)、「積極的に買いたい」(5.2%)の順であった。

図 1-14 ファストフィッシュ商品の購入意向

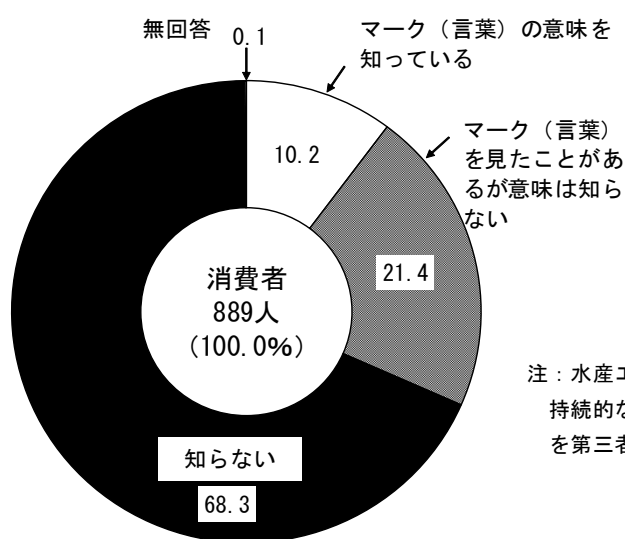


(3) 水産エコラベルについて

ア 水産エコラベルの認知度

水産エコラベルの認知については、「知らない」と回答した割合が68.3%と最も高く、次いで「マーク（言葉）を見たことがあるが意味は知らない」(21.4%)、「マーク（言葉）の意味を知っている」(10.2%)の順であった。

図 1-15 水産エコラベルの認知度

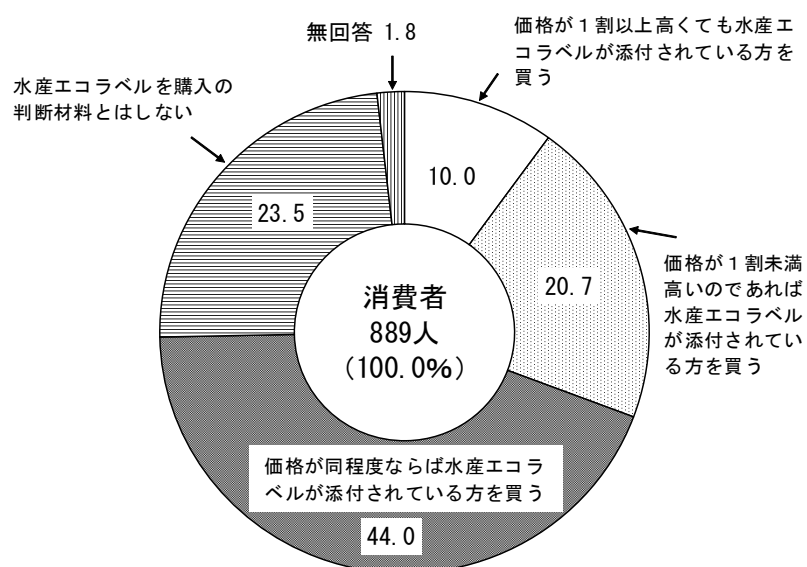


注：水産エコラベルとは、生態系を考慮し、持続的な生産を行っている漁業・養殖業を第三者機関が認証するもの。

イ 水産エコラベルが添付された商品の購入意向

同じ食材に対し水産エコラベルの添付の有無による購入の意向については、「価格が同程度ならば水産エコラベルが添付されている方を買う」と回答した割合が44.0%と最も高く、次いで「水産エコラベルを購入の判断材料とはしない」(23.5%)、「価格が1割未満高いのであれば水産エコラベルが添付されている方を買う」(20.7%)の順であった。

図1-16 水産エコラベルが添付された商品の購入意向
(添付されていない商品との価格による比較)



2 生産者モニター（農業者モニター、漁業者モニター）に対する調査結果

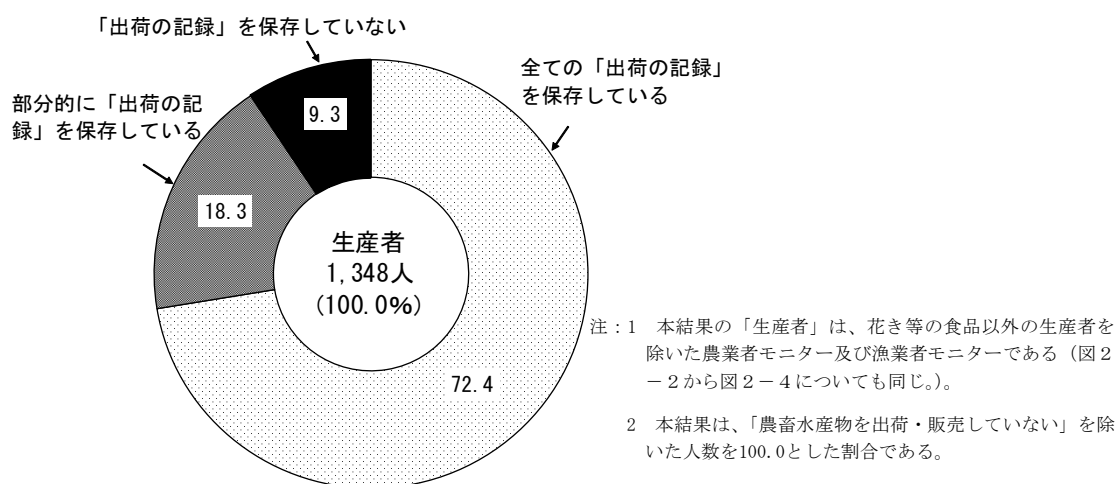
ー 農畜水産物の「出荷の記録」の保存の取組状況は、全ての出荷品について保存していると回答した割合が7割、部分的に保存しているが2割 ー

(1) 農畜水産物の出荷記録の保存の取組について（農業者モニター及び漁業者モニター）

ア 農畜水産物の「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況

生産者（農業者（花き等の食品以外の生産者を除く。）及び漁業者）において、出荷した農畜水産物の「出荷日、出荷先（組合又は事業者）名、品名、数量」が記載された「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況は、「全ての「出荷の記録」を保存している」と回答した割合が72.4%と最も高く、次いで「部分的に「出荷の記録」を保存している」（18.3%）、「「出荷の記録」を保存していない」（9.3%）の順であった。

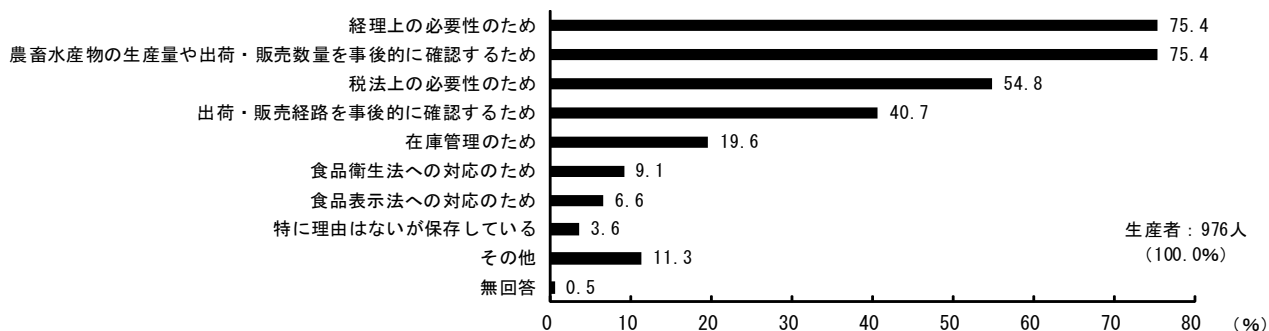
図2-1 農畜水産物の「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況



イ 「出荷の記録」を保存している理由

全ての出荷品について「出荷の記録」を保存していると回答した者において、保存している理由は、「経理上の必要性のため」及び「農畜水産物の生産量や出荷・販売数量を事後的に確認するため」と回答した割合がそれぞれ75.4%と最も高く、次いで「税法上の必要性のため」（54.8%）の順であった。

図2-2 「出荷の記録」を保存している理由（複数回答）



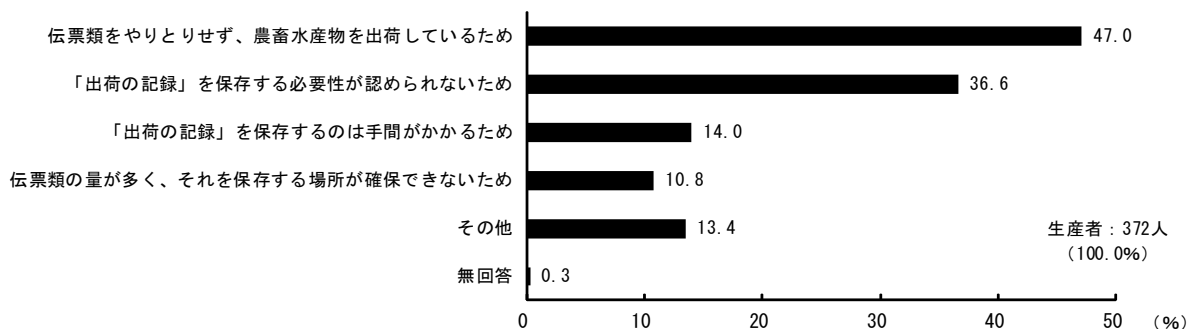
注：「その他」には米トレーサビリティ法等の制度に対応して記録を保存している者も含む

ウ 「出荷の記録」を保存していない理由

「出荷の記録」を部分的に保存している又は保存していないと回答した者において、保存していない理由は、「伝票類をやりとりせず、農畜水産物を出荷しているため」と回答した割合が47.0%と最も高く、次いで「出荷の記録」を保存する必要性が認められないため（36.6%）、「出荷の記録」を保存するのは手間がかかるため（14.0%）の順であった。

なお、「その他」の主な回答としては、JAに出荷しているため、直売のため等であった。

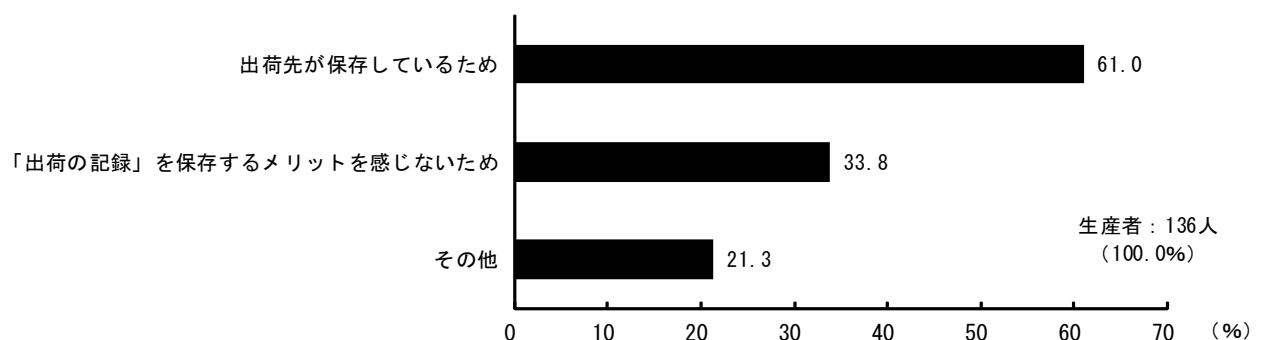
図 2－3 「出荷の記録」を保存していない理由（複数回答）



エ 「出荷の記録」を保存する必要性が認められない理由

「出荷の記録」を保存する必要性が認められないと回答した者において、保存する必要性が認められない理由は、「出荷先が保存しているため」と回答した割合が61.0%と最も高く、次いで「出荷の記録」を保存するメリットを感じないため（33.8%）、「その他」（21.3%）の順であった。

図 2－4 「出荷の記録」を保存する必要性が認められない理由（複数回答）

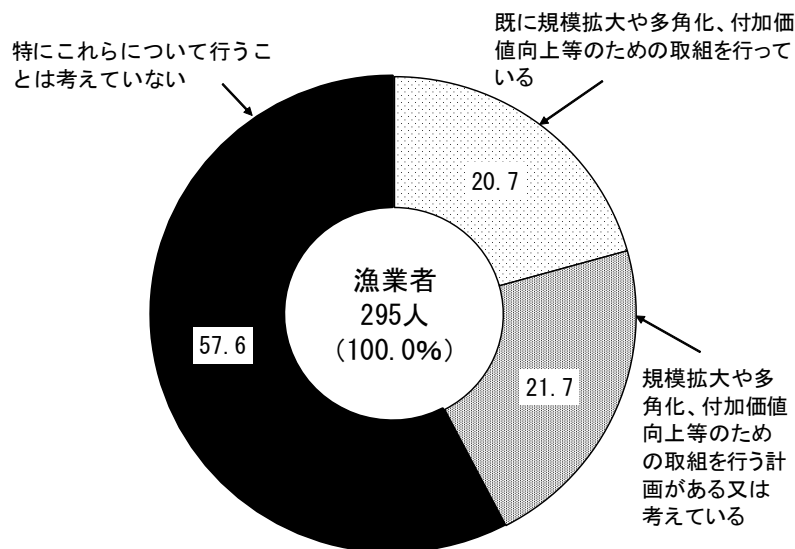


(2) 漁業経営の規模拡大や多角化、付加価値向上等のための取組について
(漁業者モニター)

ア 取組の意向

漁業者において、漁業経営の規模拡大や多角化、付加価値向上等のための取組（以下、(2)において単に「取組」という。）の意向は、「特にこれらについて行うことは考えていない」と回答した割合が57.6%と最も高く、次いで「取組を行う計画がある又は考えている」（21.7%）、「既に取組を行っている」（20.7%）の順であった。

図 2－5 漁業経営の規模拡大や多角化、付加価値向上等のための取組の意向

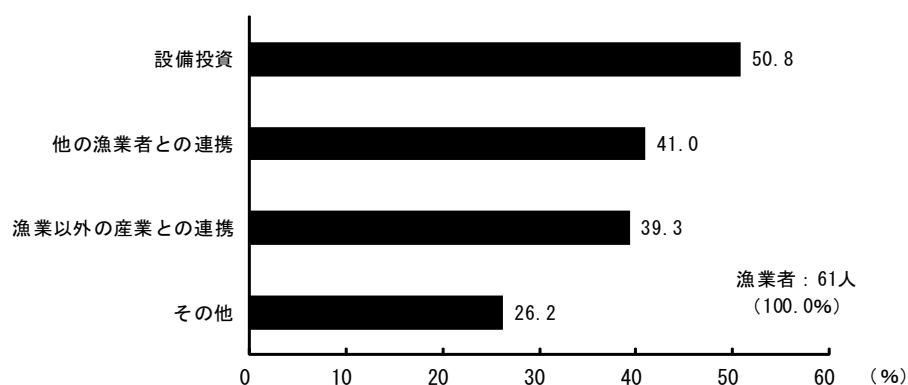


イ 既に取組を行っている漁業者について

(ア) 実施している取組の内容

取組の意向で「既に取組を行っている」と回答した者において、実施している取組の内容は、「設備投資」と回答した割合が50.8%と最も高く、次いで「他の漁業者との連携」（41.0%）、「漁業以外の産業との連携」（39.3%）の順であった。

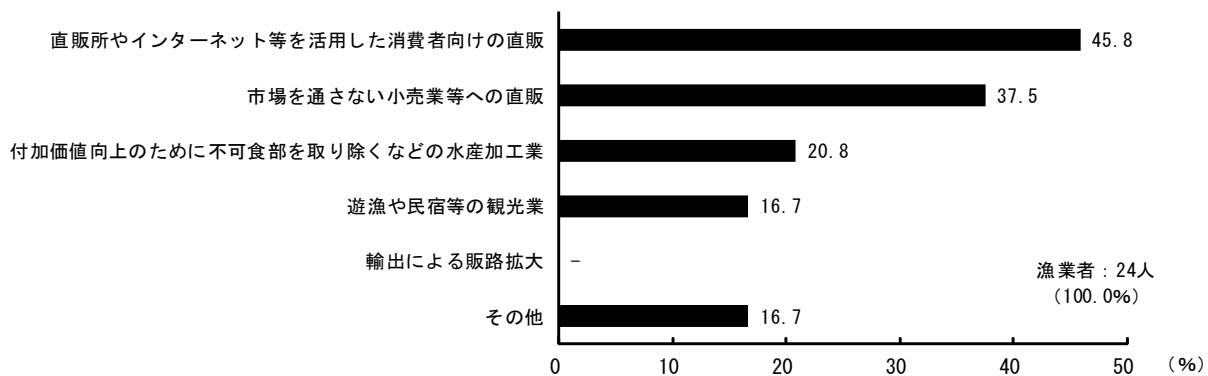
図 2－6 漁業経営の規模拡大や多角化、付加価値向上等のために実施している取組の内容（複数回答）



(イ) 漁業以外の産業との連携で実施している取組の内容

実施している取組が「漁業以外の産業との連携」と回答した者において、この取組で実施している内容は、「直販所やインターネット等を活用した消費者向けの直販」と回答した割合が45.8%で最も高く、次いで「市場を通さない小売業等への直販」(37.5%)、「付加価値向上のために不可食部を取り除くなどの水産加工業」(20.8%)であった。

図 2－7 漁業以外の産業との連携で実施している取組の内容（複数回答）

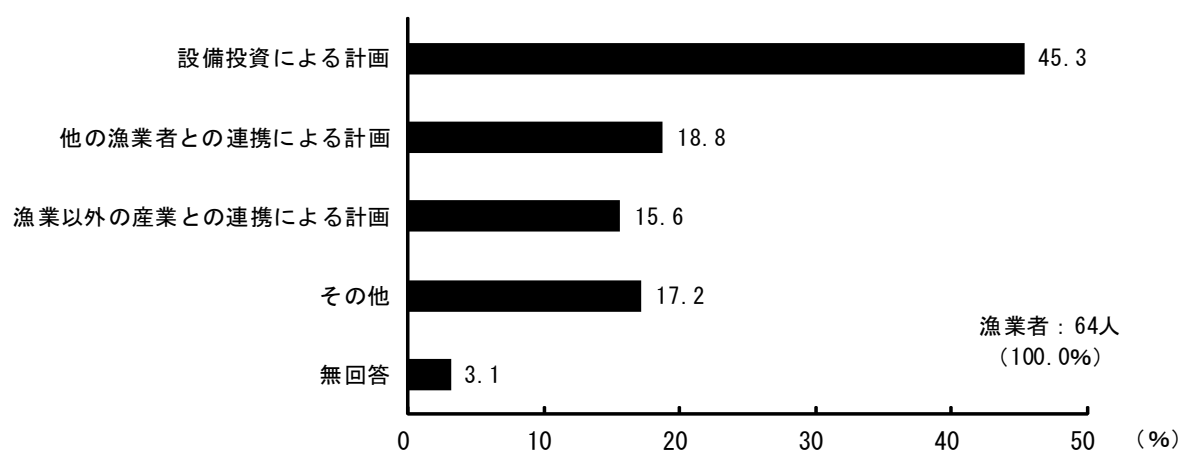


ウ 取組を計画している漁業者について

(ア) 取組の計画内容

取組の意向で「取組を行う計画がある」又は「考えている」と回答した者において、取組の計画の内容は、「設備投資による計画」と回答した割合が45.3%と最も高く、次いで「他の漁業者との連携による計画」(18.8%)、「漁業以外の産業との連携による計画」(15.6%)の順であった。

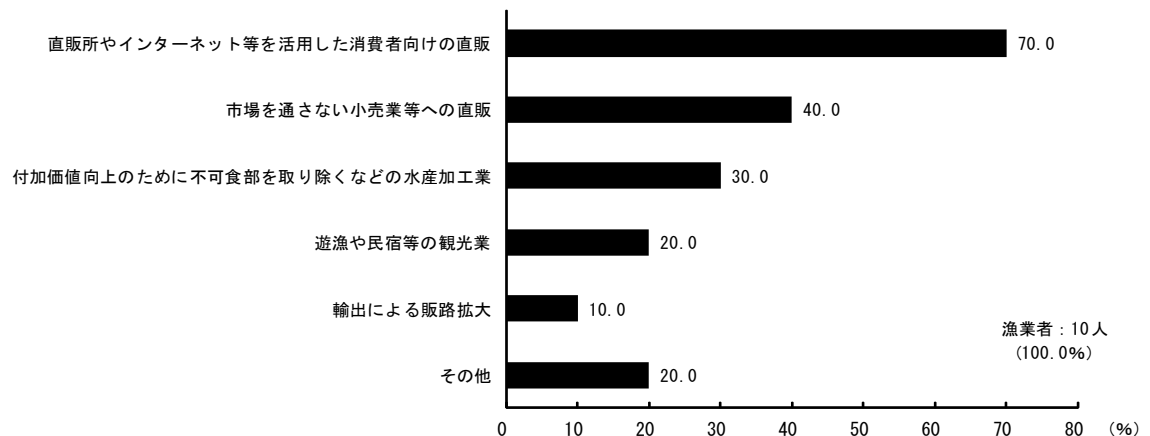
図 2－8 漁業経営の規模拡大や多角化、付加価値向上等のための取組の計画内容（複数回答）



(イ) 漁業以外の産業との連携で取組を考えている内容

取組の計画の内容で「漁業以外の産業との連携」と回答した者において、この取組で考えている内容は「直販所やインターネット等を活用した消費者向けの直販」と回答した割合が70.0%と最も高く、次いで「市場を通さない小売業等への直販」(40.0%)、「付加価値向上のために不可食部を取り除くなどの水産加工業」(30.0%)、「遊漁や民宿等の観光業」(20.0%)の順であった。

図 2-9 漁業以外の産業との連携で取組を考えている内容(複数回答)

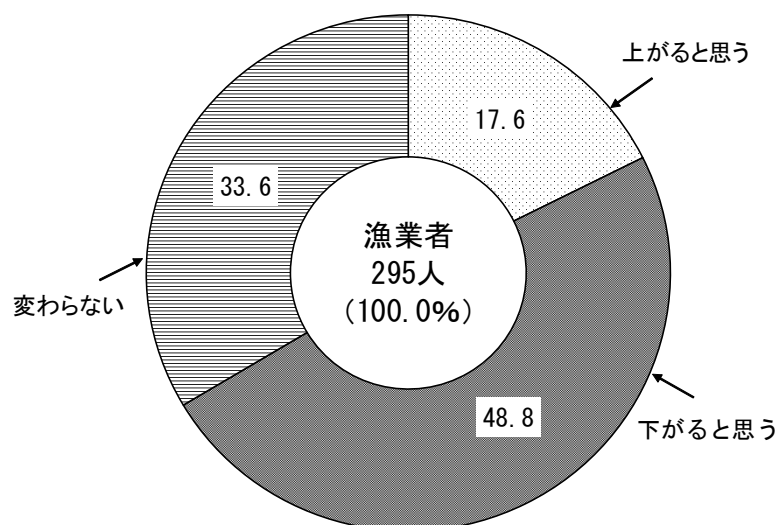


(3) 今後の漁業に係る所得について(漁業者モニター)

ア 今後の自分の漁業所得の変化について

今後の自分の漁業所得は、「下がると思う」と回答した割合が48.8%と最も高く、次いで「変わらない」(33.6%)、「上がると思う」(17.6%)の順であった。

図 2-10 今後の自分の漁業所得の変化

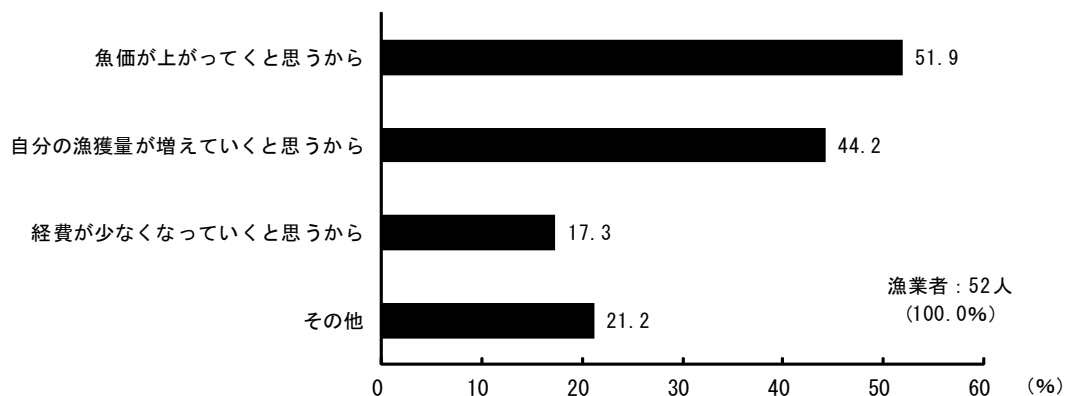


イ 今後の自分の漁業所得が上がると思う理由

今後の自分の漁業所得が「上がると思う」と回答した者において、その理由は「魚価が上がっていくと思うから」と回答した割合が51.9%と最も高く、次いで「自分の漁獲量が増えていくと思うから」(44.2%)、「経費が少なくなっていくと思うから」(17.3%)の順であった。

なお、「その他」の主な回答としては、魚価向上の努力等であった。

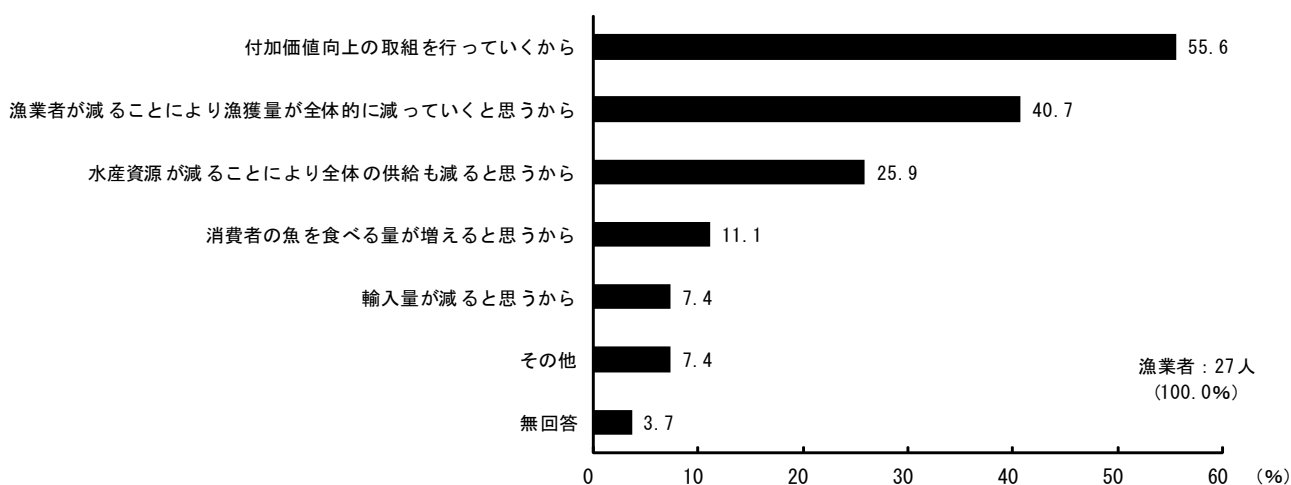
図 2-11 今後の自分の漁業所得が上がると思う理由（複数回答）



ウ 魚価が上がると思う理由

今後の自分の漁業所得が上がる理由が「魚価が上がっていくと思うから」と回答した者において、その理由は「付加価値向上の取組を行っていくから」と回答した割合が55.6%と最も高く、次いで「漁業者が減ることにより漁獲量が全体的に減っていくと思うから」(40.7%)、「水産資源が減ることにより全体の供給も減ると思うから」(25.9%)の順であった。

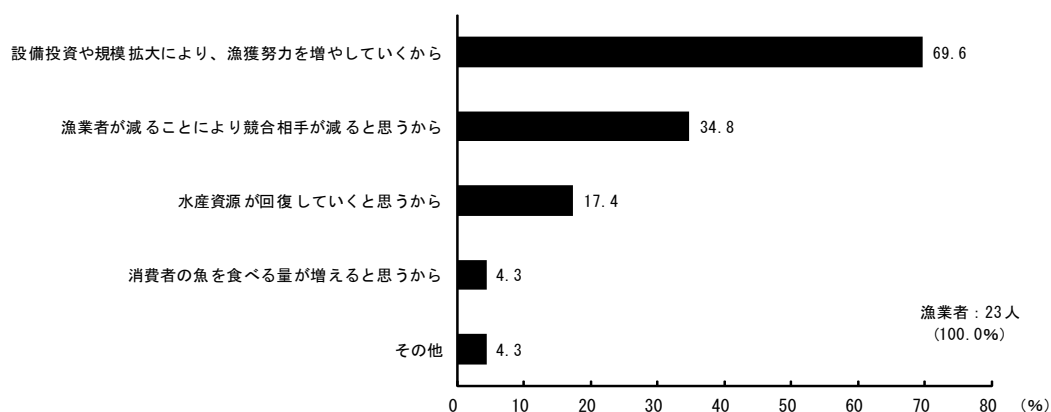
図 2-12 魚価が上がると思う理由（複数回答）



エ 自分の漁獲量が増えていくと思う理由

今後の自分の漁業所得が上がる理由が「自分の漁獲量が増えていくと思うから」と回答した者において、その理由は「設備投資や規模拡大により、漁獲努力を増やしていくから」と回答した割合が69.6%と最も高く、次いで「漁業者が減ることにより競合相手が減ると思うから」(34.8%)、「水産資源が回復していくと思うから」(17.4%)の順であった。

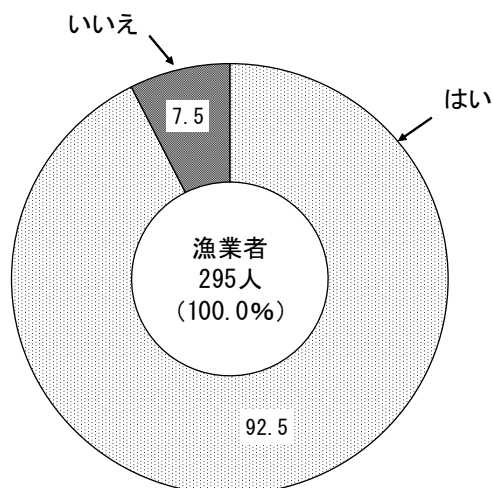
図 2-13 自分の漁獲量が増えていくと思う理由（複数回答）



オ 漁業に係る経費の状況

漁業に係る経費が上がっているかは、「はい（上がっている）」が92.5%、「いいえ（上がっていない）」が7.5%であった。

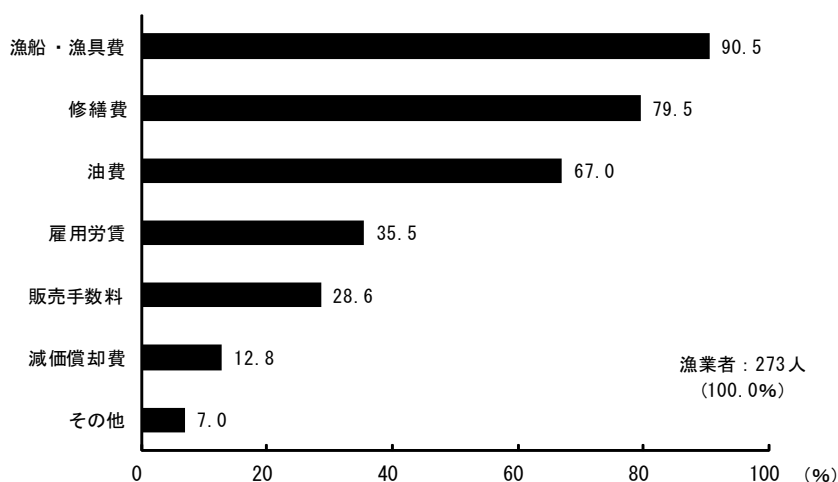
図 2-14 漁業に係る経費が上がっているか



カ 上がっている経費

漁業に係る経費が上がっている（「はい」）と回答した者において、上がっている経費は、「漁船・漁具費」と回答した割合は90.5%と最も高く、次いで「修繕費」（79.5%）、「油費」（67.0%）の順であった。

図 2-15 漁業に係る経費のうち上がっている経費（複数回答）

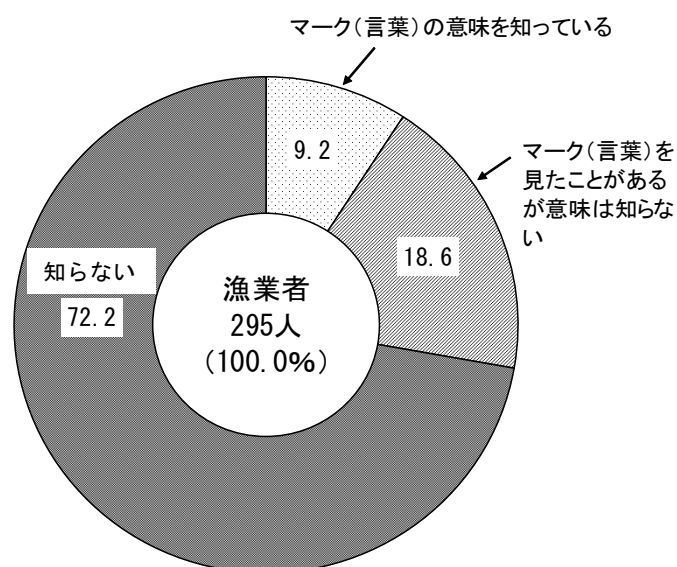


(4) 水産エコラベルについて（漁業者モニター）

ア 水産エコラベルの認知度

水産エコラベルの認知度は、「知らない」と回答した割合は、72.2%と最も高く、次いで「マーク（言葉）を見たことがあるが意味は知らない」（18.6%）、「マーク（言葉）の意味を知っている」（9.2%）の順であった。

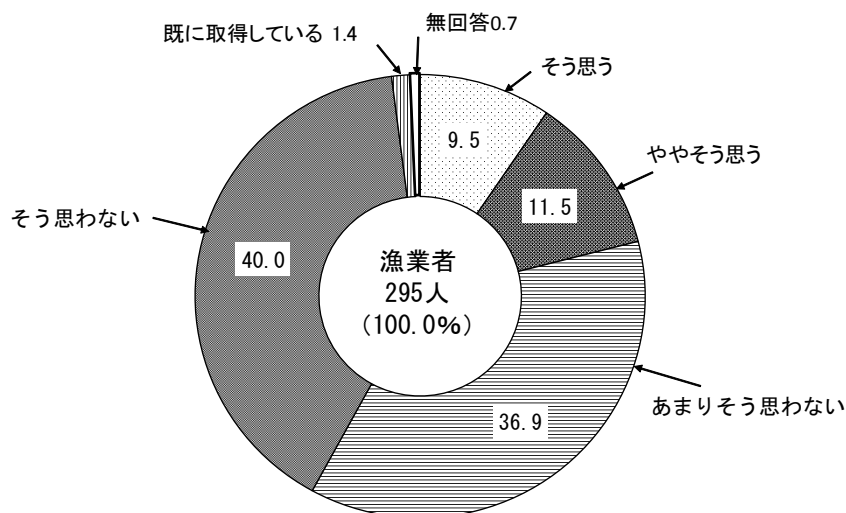
図 2-16 水産エコラベルの認知度



イ 水産エコラベル認証の取得の意向

水産エコラベル認証を取得したいかは、「そう思わない」と回答した割合が40.0%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」(36.9%)、「ややそう思う」(11.5%)の順であった。

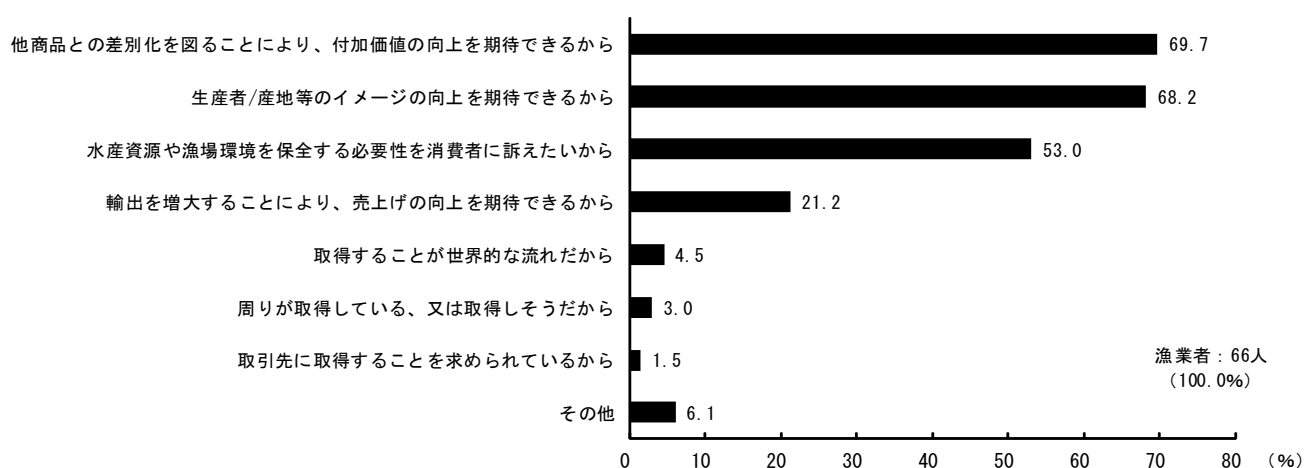
図 2-17 水産エコラベル認証を取得したいと思いますか



ウ 水産エコラベル認証を取得したい理由

水産エコラベル認証を取得したいかについて「そう思う」又は「ややそう思う」、「既に取得している」と回答した者において、取得したい(した)理由は、「他商品との差別化を図ることにより、付加価値の向上を期待できるから」と回答した割合が69.7%と最も高く、次いで「生産者/産地等のイメージの向上を期待できるから」(68.2%)、「水産資源や漁場環境を保全する必要性を消費者に訴えたいから」(53.0%)の順であった。

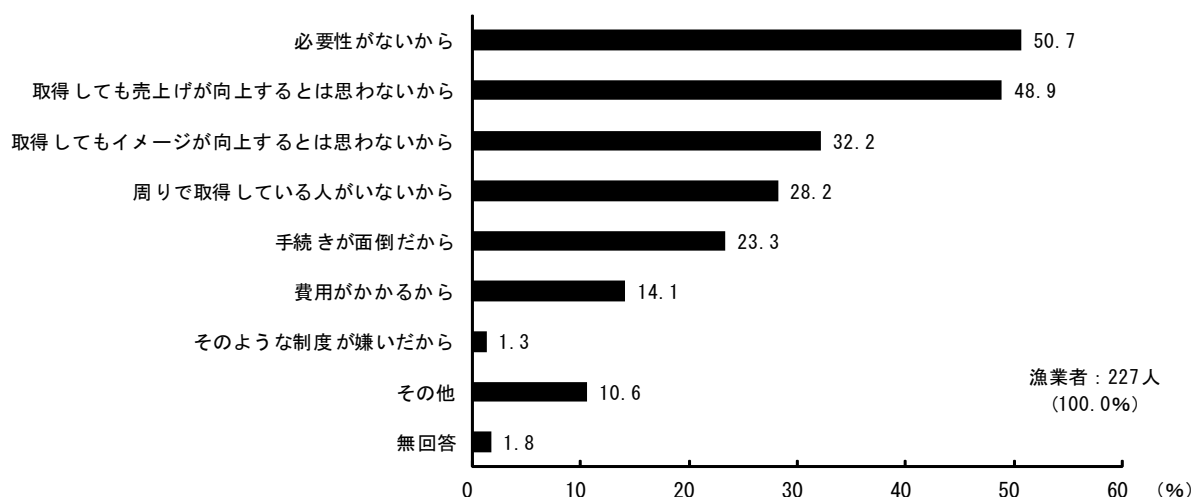
図 2-18 水産エコラベル認証を取得したい理由 (複数回答)



エ 水産エコラベル認証を取得したくない理由

水産エコラベル認証を取得したいかについて「あまりそう思わない」及び「そう思わない」と回答した者において、取得したくない理由は、「必要性がないから」と回答した割合が50.7%と最も高く、次いで「取得しても売上げが向上するとは思わないから」(48.9%)、「取得してもイメージが向上するとは思わないから」(32.2%)の順であった。

図 2-19 水産エコラベル認証を取得したくない理由（複数回答）



3 流通加工業者モニターに対する調査結果

- － 今後の国内の魚介類の消費は「減ると思う」は7割、魚介類の消費拡大のための取組をしているのは4割 －

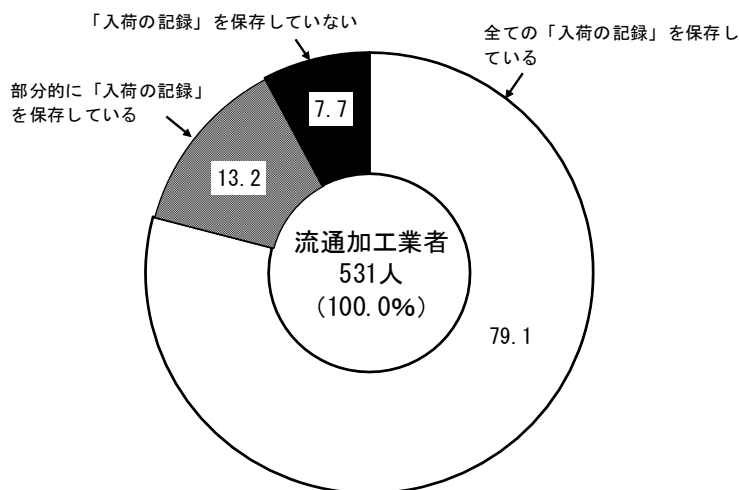
(1) 食品の入出荷及び製造等の記録の保存の取組について

ア 「入荷の記録」の保存について

(ア) 食品や原材料の「入荷の記録」を一定期間保存する取組状況

入荷した食品又は製造する製品の原材料の「入荷日、入荷先事業者名、品名、数量」が記載された「入荷の記録」を一定期間保存する取組状況は、「全ての「入荷の記録」を保存している」と回答した割合が79.1%と最も高く、次いで「部分的に「入荷の記録」を保存している」(13.2%)、「「入荷の記録」を保存していない」(7.7%)の順であった。

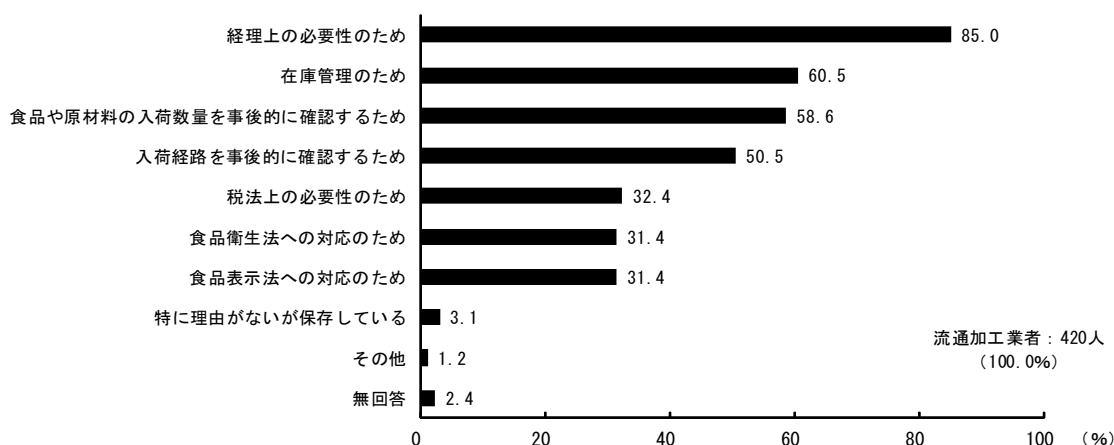
図3－1 食品や原材料の「入荷の記録」を一定期間保存する取組状況



(イ) 「入荷の記録」を保存している理由

「入荷の記録」を全て保存していると回答した者において、保存している理由は、「経理上の必要性のため」と回答した割合が85.0%と最も高く、次いで「在庫管理のため」(60.5%)、「食品や原材料の入荷数量を事後的に確認するため」(58.6%)、「入荷経路を事後的に確認するため」(50.5%)の順であった。

図3－2 「入荷の記録」を保存している理由（複数回答）

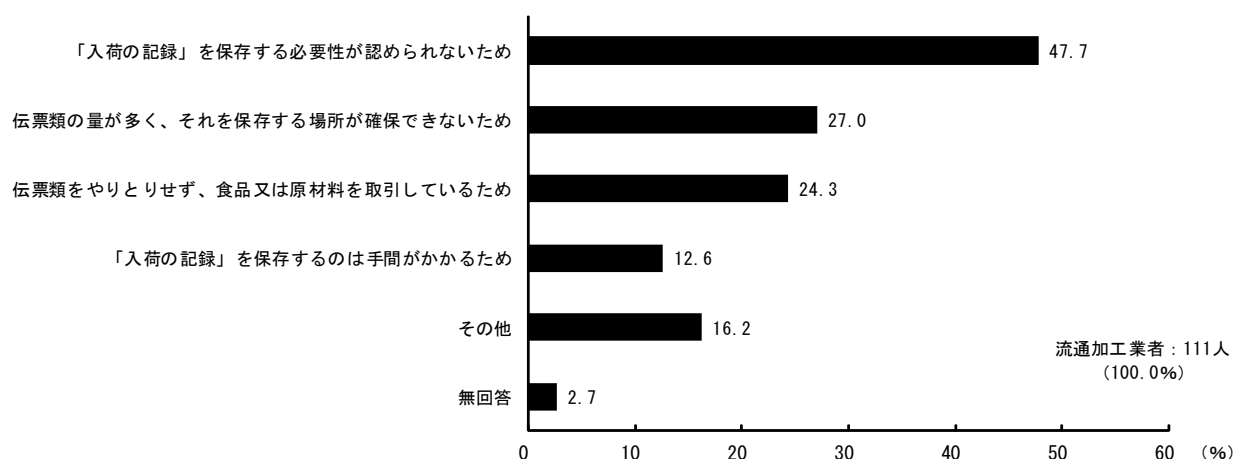


(ウ) 「入荷の記録」を保存していない理由

「入荷の記録」を部分的に保存している又は保存していないと回答した者において、保存していない理由は、「「入荷の記録」を保存する必要性が認められないため」と回答した割合が47.7%と最も高く、次いで「伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できない」(27.0%)、「伝票類をやりとりせず、食品又は原材料を取引しているため」(24.3%)の順であった。

なお、「その他」の主な回答としては、自家(社)生産品のため等であった。

図3-3 「入荷の記録」を保存していない理由(複数回答)

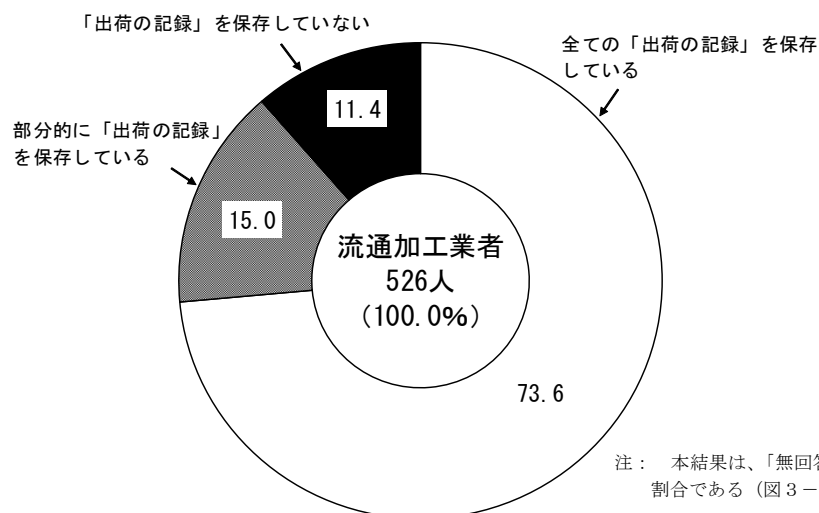


イ 「出荷の記録」の保存について

(ア) 食品の「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況

出荷する食品の「出荷日、出荷先事業者名、品名、数量」が記載された「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況は、「全ての「出荷の記録」を保存している」と回答した割合が73.6%と最も高く、次いで「部分的に「出荷の記録」を保存している」(15.0%)、「「出荷の記録」を保存していない」(11.4%)の順であった。

図3-4 食品の「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況

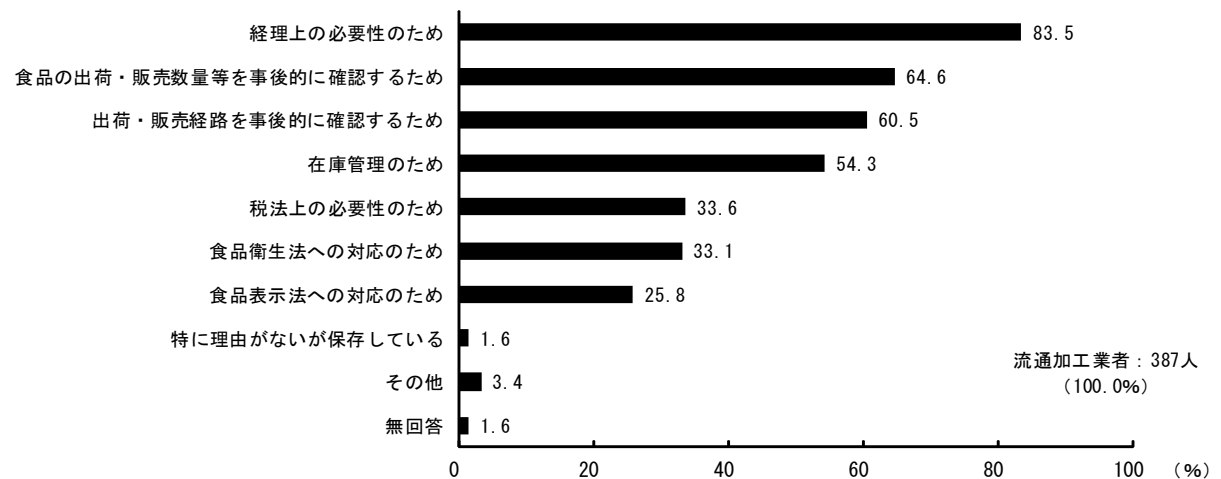


注：本結果は、「無回答」の者を除いた人数を100.0とした割合である(図3-7について同じ。)

(イ) 「出荷の記録」を保存している理由

「出荷の記録」を全て保存していると回答した者において、保存している理由は、「経理上の必要性のため」と回答した割合が83.5%と最も高く、次いで「食品の出荷・販売数量等を事後的に確認するため」(64.6%)、「出荷・販売経路を事後的に確認するため」(60.5%)、「在庫管理のため」(54.3%)の順であった。

図3-5 「出荷の記録」を保存している理由（複数回答）

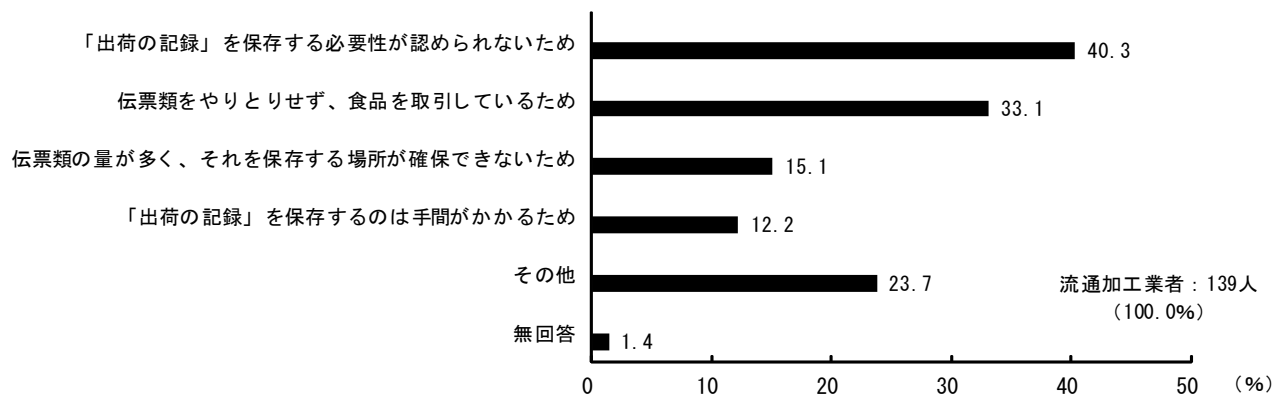


(ウ) 「出荷の記録」を保存していない理由

「出荷の記録」を部分的に保存している又は保存していないと回答した者において、保存していない理由は、「「出荷の記録」を保存する必要性が認められないため」と回答した割合が40.3%と最も高く、次いで「伝票類をやりとりせず、食品を取引しているため」(33.1%)、「伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できないため」(15.1%)の順であった。

なお、「その他」の主な回答としては、店頭販売のため、小売業のため等であった。

図3-6 「出荷の記録」を保存していない理由（複数回答）

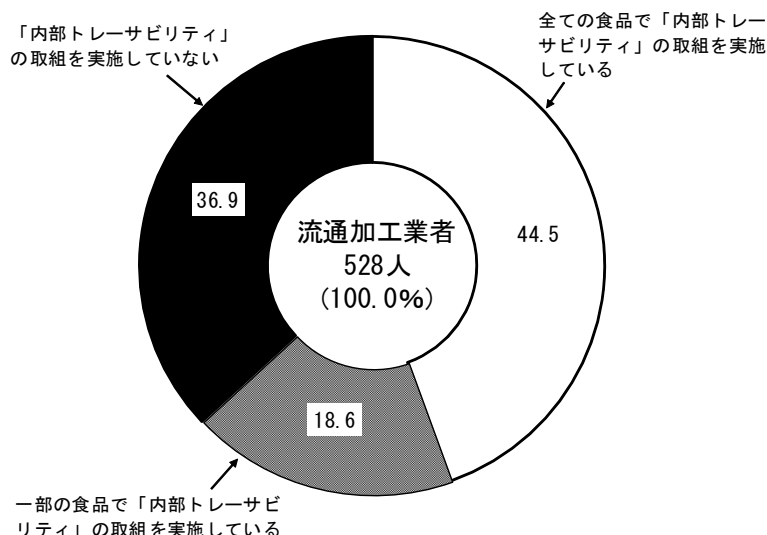


ウ 内部トレーサビリティの取組について

(ア) 「内部トレーサビリティ」の取組状況

入荷した食品（原料）と製造した食品（製品）を対応づける記録を保存する取組（内部トレーサビリティ）の取組状況は、「全ての食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施している」と回答した割合が44.5%と最も高く、次いで「「内部トレーサビリティ」の取組を実施していない」（36.9%）、「一部の食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施している」（18.6%）の順であった。

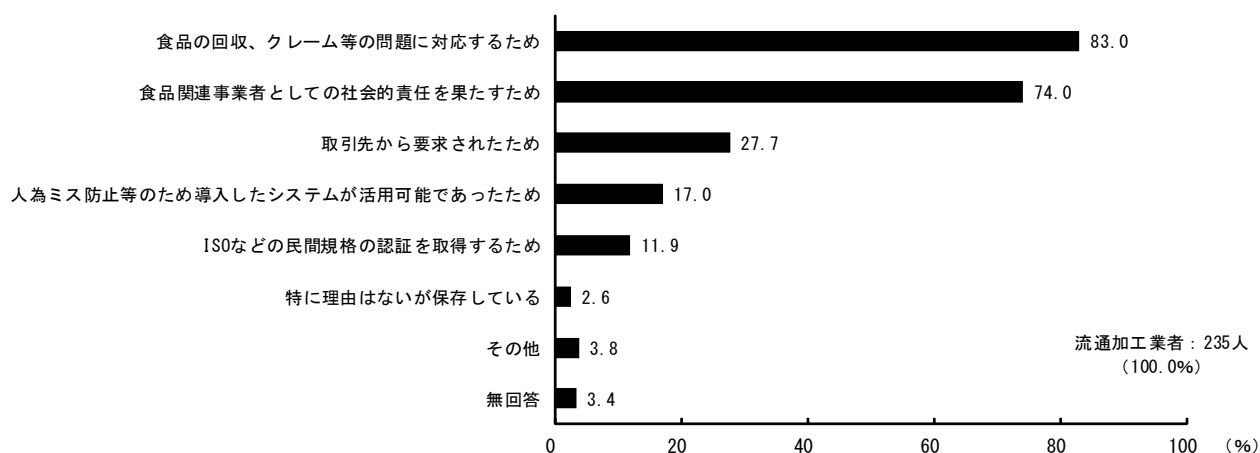
図3-7 「内部トレーサビリティ」の取組状況



(イ) 「内部トレーサビリティ」の取組をしている理由

全ての食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施していると回答した者において、「内部トレーサビリティ」の取組をしている理由は、「食品の回収、クレーム等の問題に対応するため」と回答した割合が83.0%と最も高く、次いで「食品関連事業者としての社会的責任を果たすため」（74.0%）、「取引先から要求されたため」（27.7%）の順であった。

図3-8 「内部トレーサビリティ」の取組をしている理由（複数回答）

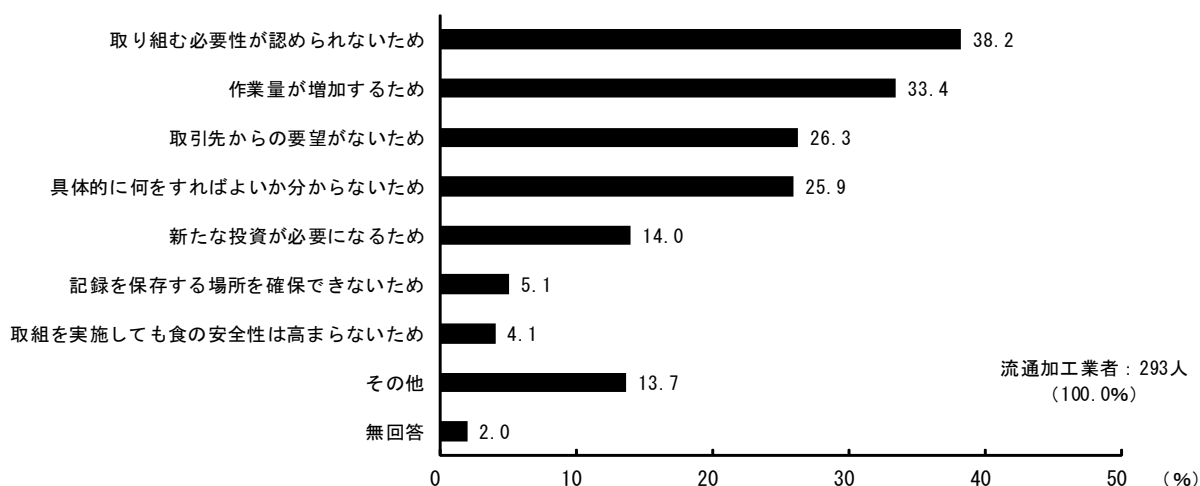


(ウ) 「内部トレーサビリティ」の取組をしていない理由

「内部トレーサビリティ」の取組を一部の食品で実施している又は実施していないと回答した者において、「内部トレーサビリティ」の取組をしていない理由は、「取り組む必要性が認められないため」と回答した割合が38.2%と最も高く、次いで「作業量が増加するため」(33.4%)、「取引先からの要望がないため」(26.3%)、「具体的に何をすればよいか分からないため」(25.9%)の順であった。

なお、「その他」の主な回答としては、対面販売、小売業者のため等であった。

図3-9 「内部トレーサビリティ」の取組をしていない理由（複数回答）

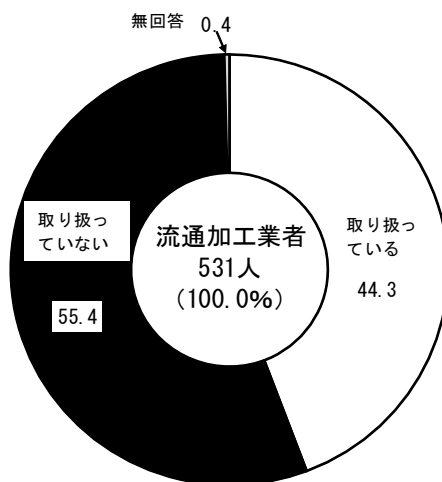


(2) 水産物の取り扱いについて

ア 水産物の取り扱い状況

水産物の取り扱い状況は、「取り扱っている」と回答した割合が44.3%、「取り扱っていない」が55.4%であった。

図3-10 水産物の取扱状況

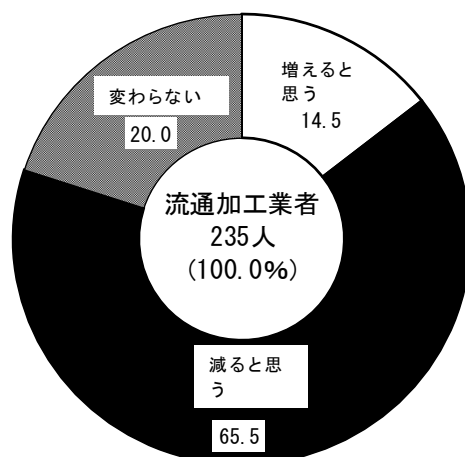


注：以下の(2)のイからエ(エ)は、(2)のアで水産物を「取り扱っている」と回答した流通加工業者モニターを対象とした結果である。

イ 今後の国内の魚介類の消費量

今後の国内の魚介類の消費量は、「減ると思う」と回答した割合が65.5%と最も高く、次いで「変わらない」(20.0%)、「増えると思う」(14.5%)の順であった。

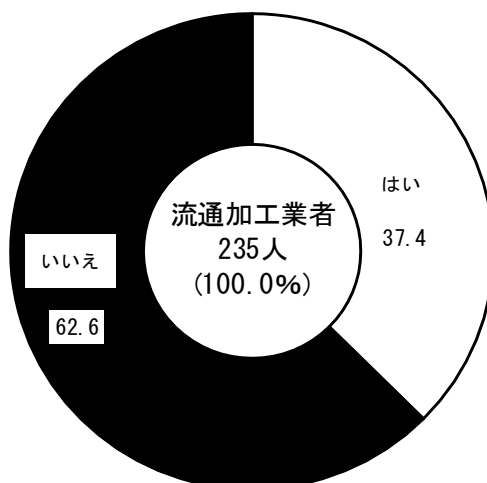
図3-11 今後の国内の魚介類の消費量



ウ 魚介類の消費拡大のための取組

魚介類の消費拡大のために取り組んでいることがあるかは、「はい」と回答した割合が37.4%、「いいえ」と回答した割合が62.6%であった。

図3-12 魚介類の消費拡大のために取り組んでいることがあるか

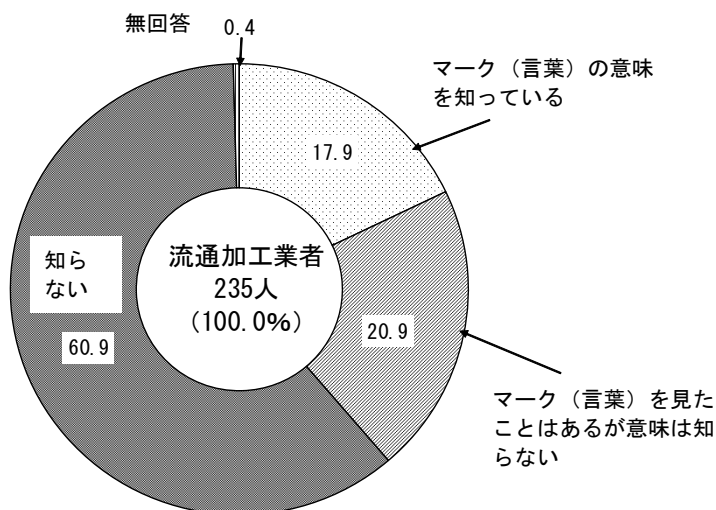


エ 水産エコラベル

(ア) 水産エコラベルの認知度

水産エコラベルの認知度は、「知らない」と回答した割合が60.9%と最も高く、次いで「マーク（言葉）を見たことはあるが意味は知らない」（20.9%）、「マーク（言葉）の意味を知っている」（17.9%）の順であった。

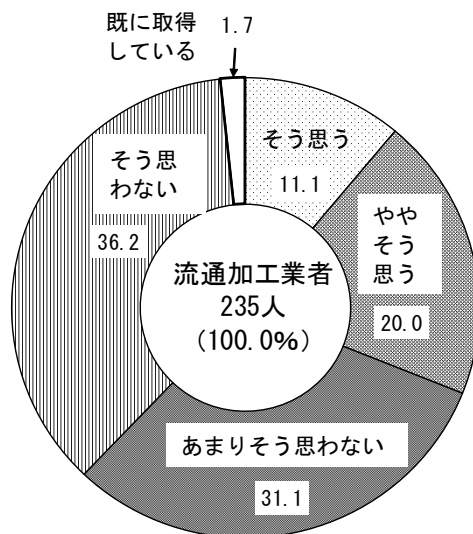
図 3-13 水産エコラベルの認知度



(イ) 水産エコラベル認証の取得の意向

水産エコラベル認証を取得したいかは、「そう思わない」と回答した割合が36.2%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」（31.1%）、「ややそう思う」（20.0%）の順であった。

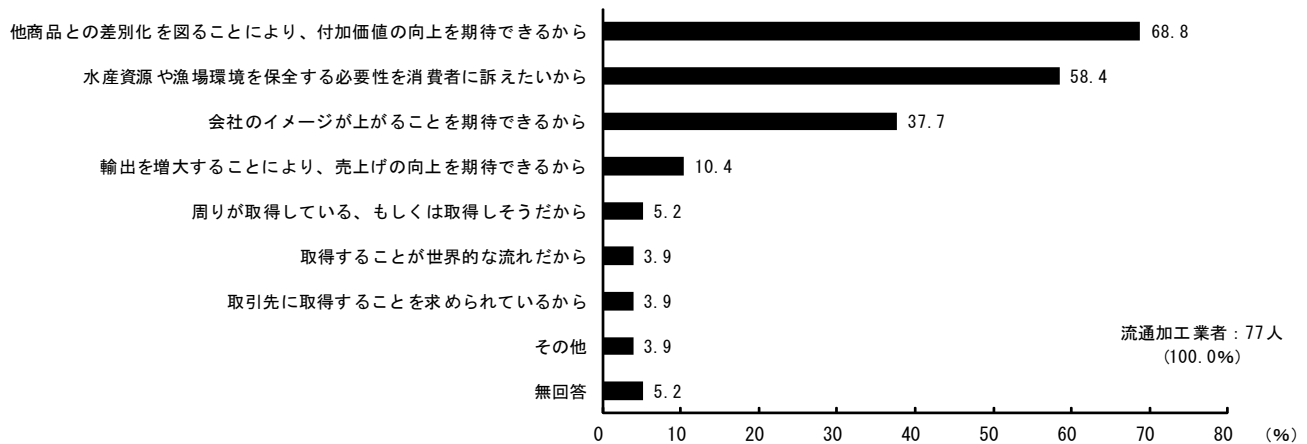
図 3-14 水産エコラベル認証を取得したいか



(ウ) 水産エコラベル認証を取得したい理由

水産エコラベル認証の取得の意向が「そう思う」又は「ややそう思う」、「既に取得している」と回答した者において、取得したい（した）理由は、「他商品との差別化を図ることにより、付加価値の向上を期待できるから」と回答した割合が68.8%と最も高く、次いで「水産資源や漁場環境を保全する必要性を消費者に訴えたいから」（58.4%）、「会社のイメージが上がることを期待できるから」（37.7%）の順であった。

図3-15 水産エコラベル認証を取得したい理由

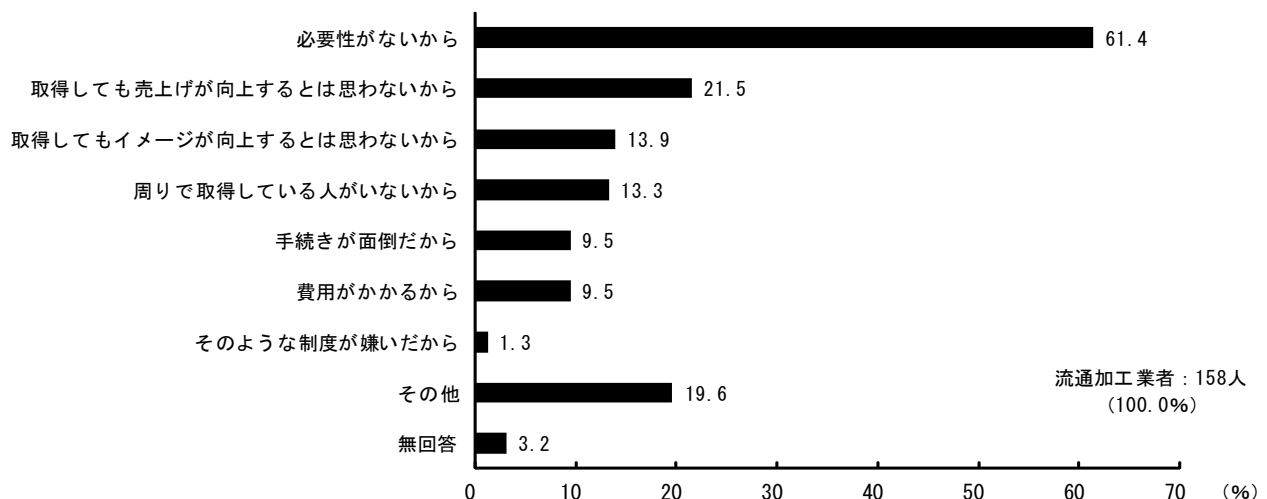


(エ) 水産エコラベル認証を取得したくない理由

水産エコラベル認証の取得の意向が「あまりそう思わない」又は「そう思わない」と回答した者において、取得したくない理由は、「必要性がないから」と回答した割合が61.4%と最も高く、次いで「取得しても売上げが向上するとは思わないから」（21.5%）、「取得してもイメージが向上するとは思わないから」（13.9%）の順であった。

なお、「その他」の主な回答としては、水産エコラベルをよく知らないため等であった。

図3-16 水産エコラベル認証を取得したくない理由



【 統 計 表 】

統計表一覧

ページ

1 消費者モニター

(1) 魚介類の消費について	
ア 魚介類の好き嫌いについて.....	30
イ 魚介類を食べる頻度について.....	30
ウ 魚介類をよく食べる理由（複数回答）.....	30
エ 国産魚介類を食べることがどのようなことにつながるか（複数回答）.....	30
オ 魚介類をあまり食べない理由（複数回答）.....	30
カ 子供の頃の魚介類を食べた頻度.....	31
キ 魚介類を食べる量の変化.....	31
ク 食べる量が増えた理由（複数回答）.....	31
ケ 食べる量が減った理由（複数回答）.....	31
(2) ファストフィッシュについて	
ア ファストフィッシュの認知度.....	32
イ ファストフィッシュ商品を購入する頻度.....	32
ウ ファストフィッシュ商品の用途（複数回答）.....	32
エ ファストフィッシュ商品を購入しない理由（複数回答）.....	32
オ ファストフィッシュ商品の購入意向.....	32
(3) 水産エコラベルについて	
ア 水産エコラベルの認知度.....	32
イ 水産エコラベルが添付された商品の購入意向.....	32

2 生産者モニター（農業者モニター及び漁業者モニター）

(1) 農畜水産物の出荷記録の取組について（農業者モニター及び漁業者モニター）	
ア 農畜水産物の「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況.....	33
イ 「出荷の記録」を保存している理由（複数回答）.....	33
ウ 「出荷の記録」を保存していない理由（複数回答）.....	33
エ 「出荷の記録」を保存する必要性が認められない理由（複数回答）.....	34
(2) 漁業経営の規模拡大や多角化、付加価値向上等のための取組について（漁業者モニター）	
ア 取組の意向.....	34
イ 既に取組を行っている漁業者について	
（ア）実施している取組の内容（複数回答）.....	34
（イ）漁業以外の産業との連携で実施している取組の内容（複数回答）.....	34
ウ 取組を計画している漁業者について	
（ア）取組の計画内容（複数回答）.....	35
（イ）漁業以外の産業との連携で取組を考えている内容（複数回答）.....	35
(3) 今後の漁業に係る所得について（漁業者モニター）	
ア 今後の自分の漁業所得の変化について.....	35
イ 今後の自分の漁業所得が上がると思う理由（複数回答）.....	35
ウ 魚価が上がると思う理由（複数回答）.....	35
エ 自分の漁獲量が増えていくと思う理由（複数回答）.....	35
オ 漁業に係る経費の状況.....	36
カ 上がっている経費（複数回答）.....	36
(4) 水産エコラベルについて（漁業者モニター）	
ア 水産エコラベルの認知度.....	36
イ 水産エコラベル認証の取得の意向.....	36
ウ 水産エコラベル認証を取得したい理由（複数回答）.....	36
エ 水産エコラベル認証を取得したくない理由（複数回答）.....	36

3 流通加工業者モニター

(1) 食品の入出荷及び製造等の記録の保存の取組について	
ア 「入荷の記録」の保存について	
(ア) 食品や原材料の「入荷の記録」を一定期間保存する取組状況	37
(イ) 「入荷の記録」を保存している理由（複数回答）	37
(ウ) 「入荷の記録」を保存していない理由（複数回答）	37
イ 「出荷の記録」の保存について	
(ア) 食品の「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況	37
(イ) 「出荷の記録」を保存している理由（複数回答）	38
(ウ) 「出荷の記録」を保存していない理由（複数回答）	38
ウ 「内部トレサビリティ」の取組について	
(ア) 「内部トレサビリティ」の取組状況	38
(イ) 「内部トレサビリティ」の取組を実施している理由（複数回答）	38
(ウ) 「内部トレサビリティ」の取組を実施していない理由（複数回答）	38
(2) 水産物の取り扱いについて	
ア 水産物の取り扱い状況	39
イ 今後の国内の魚介類の消費量	39
ウ 魚介類の消費拡大のための取組	39
エ 水産エコラベル	
(ア) 水産エコラベルの認知度	39
(イ) 水産エコラベル認証の取得の意向	39
(ウ) 水産エコラベル認証を取得したい理由（複数回答）	39
(エ) 水産エコラベル認証を取得したくない理由（複数回答）	39

1 消費者モニター

- (1) 魚介類の消費について
ア 魚介類の好き嫌いについて

区 分	回答者数	好き	どちらかといえ ば好き	どちらともい えない	どちらかといえ ば嫌い	嫌い	無回答
計	人 889	% 70.8	% 19.1	% 7.1	% 2.4	% 0.7	% -

イ 魚介類を食べる頻度について

区 分	回答者数	ほぼ毎日	週に4～5日	週に2～3日	週に1日	月に1～2日	ほとんど食 べない	無回答
計	人 889	% 10.9	% 21.7	% 47.9	% 16.2	% 2.8	% 0.4	% -

ウ 魚介類をよく食べる理由（複数回答）

（イで「ほぼ毎日」、「週に4～5日」、「週に2～3日」又は「週に1日」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	美味しいから	健康に良いから	安いから	家族（大人）が好きな だから	子供が好きな だから	鮮度や品質の良い魚介類が 入手しやすいから	バラエティに富んでいるから	食べやすいから	季節感や旬を楽しめるから	地域の特色を感じることが できるから
計	人 860	% 80.9	% 76.2	% 9.3	% 34.8	% 10.8	% 23.7	% 10.7	% 11.9	% 43.7	% 18.4

区 分	調理が簡単だから	調理が楽しいから、作 りがいがあるから	豪華な感じがするから	ご飯と良く合うから	お酒に良く合うから	その他	無回答
計	% 13.8	% 6.2	人 3.3	% 39.0	人 21.3	% 4.3	% 0.9

エ 国産魚介類を食べることがどのようなことにつながるか（複数回答）

（イで「ほぼ毎日」、「週に4～5日」、「週に2～3日」又は「週に1日」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	国産魚介類を食べること によって水産業が維持され、漁 村地域の雇用が確保される	国内水産業が維持されること で食料安全保障につながる	持続可能な資源の利用をして いる国産魚介類を食べること で環境保全につながる	その他	ない	無回答
計	人 860	% 79.4	% 53.8	% 29.7	% 4.8	% 4.5	% 1.9

オ 魚介類をあまり食べない理由（複数回答）

（イで「月に1～2日」又は「ほとんど食べない」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	美味しいと思 わないから	健康に良いと思 わないから	高いから	家族（大人）が嫌 いだから	子供が嫌いだ から	鮮度や品質の良い魚介類が 入手にくいから	食べにくい から	調理が難しい・面倒だ から	ボリュームのあるおか ずが作りづらいから	鮮度が悪くなりやす く、保存しにくいから
計	人 29	% 13.8	% 3.4	% 37.9	% 20.7	% 13.8	% 13.8	% 27.6	% 48.3	% 24.1	% 31.0

区 分	生ゴミの処理等片付けが面倒 だから	料理の際の臭いや煙が気にな るから	豪華な感じがしないから	ご飯とあまり合わないから	お酒にあまり合わないから	その他	無回答
計	人 37.9	% 31.0	% -	% 6.9	% -	% 20.7	% 3.4

カ 子供の頃の魚介類を食べた頻度

区 分	回答者数	ほぼ毎日	週に4～5日	週に2～3日	週に1日	月に1～2日	ほとんど食べない	無回答
計	人 889	% 15.4	% 25.3	% 42.9	% 11.4	% 3.3	% 1.5	% 0.3

キ 魚介類を食べる量の変化（子供の頃との比較）

区 分	回答者数	増えた	変わらない	減った	無回答
計	人 889	% 29.6	% 31.9	% 38.2	% 0.2

ク 食べる量が増えた理由（複数回答）
（キで「増えた」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	美味しいと思うようになったから	健康に気を遣うようになったから	価格が安くなったと感じるから	家族（大人）が好きだから	子供が好きだから	鮮度や品質の良い魚介類が入手しやすいから	バラエティに富んでいると感じるから	食べやすいと感じるようになったから	季節感や旬を楽しめると思うようになったから
計	人 263	% 65.0	% 70.7	% 11.8	% 29.7	% 7.6	% 43.7	% 16.0	% 24.0	% 40.7

区 分	地域の特徴を感じることができると思うようになったから	調理が簡単だから	調理が楽しいから、作りがいがあるから	豪華な感じがするから	ご飯と良く合うと思うようになったから	お酒に良く合うから	その他	無回答
計	% 19.8	% 12.5	% 7.6	% 6.1	% 30.4	% 21.7	% 9.1	% 2.3

ケ 食べる量が減った理由（複数回答）
（キで「減った」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	美味しくないと思うようになったから	健康に気を遣うようになったから	価格が高くなったと感じるから	家族（大人）が嫌いだから	子供が嫌いだから	鮮度や品質の良い魚介類が入手しにくくなったと感じるから	食べにくいと感じるようになったから	調理が難しい・面倒だから	ボリュームのあるおかずが作りづらいから
計	人 340	% 2.6	% 3.5	% 43.2	% 10.6	% 10.3	% 26.5	% 9.7	% 31.5	% 18.5

区 分	鮮度が悪くなりやすく、保存しにくいから	生ゴミの処理等片付けが面倒だから	料理の際の臭いや煙が気になるから	豪華な感じがしないから	ご飯とあまり合わないと思うようになったから	お酒にあまり合わないから	その他	無回答
計	% 15.9	% 23.2	% 19.7	% 5.0	% 0.3	% 0.6	% 18.5	% 2.6

1 消費者モニター（続き）

(2) ファストフィッシュについて

ア ファストフィッシュの認知度

区 分	回答者数	知っている	言葉をきいたことはある	知らない	無回答
計	人 889	% 10.7	% 16.9	% 72.2	% 0.2

イ ファストフィッシュ商品を購入する頻度

（アで「知っている」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	月に複数回	月に1回程度	2～3ヶ月に1回	半年に1回程度	年に1回以下	購入していない	無回答
計	人 95	% 32.6	% 18.9	% 12.6	% 5.3	% 7.4	% 23.2	% -

ウ ファストフィッシュ商品の用途（複数回答）

（イで「月に複数回」、「月に1回程度」、「2～3ヶ月に1回」、「半年に1回程度」及び「年に1回以下」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	ご飯のおかず	お弁当のおかず	お酒のおつまみ	おやつ	その他	無回答
計	人 73	% 82.2	% 32.9	% 28.8	% 4.1	% 1.4	% 1.4

エ ファストフィッシュ商品を購入しない理由（複数回答）

（イで「購入していない」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	値段が高いから	美味しそうなのがないから	魚介類が嫌いだから	魚介類に限らずに調理済み商品は買わないから	魚介類は自分で調理して食べたいから	調理に手を抜いてると思われるから	店頭で見かけないから	その他	無回答
計	人 22	% 13.6	% 13.6	% 9.1	% 27.3	% 36.4	% 13.6	% 50.0	% 18.2	% -

オ ファストフィッシュ商品の購入意向

（アで「言葉をきいたことはある」及び「知らない」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	積極的に買いたい	機会があれば買いたい	買いたくない	無回答
計	人 792	% 5.2	% 71.6	% 6.3	% 16.9

(3) 水産エコラベルについて

ア 水産エコラベルの認知度

区 分	回答者数	マーク（言葉）の意味を知っている	マーク（言葉）を見たことがあるが意味は知らない	知らない	無回答
計	人 889	% 10.2	% 21.4	% 68.3	% 0.1

イ 水産エコラベルが添付された商品の購入意向

区 分	回答者数	価格が1割以上高くても水産エコラベルが添付されている方を買う	価格が1割未満高いのであれば水産エコラベルが添付されている方を買う	価格が同程度ならば水産エコラベルが添付されている方を買う	水産エコラベルを購入の判断材料とはしない	無回答
計	人 889	% 10.0	% 20.7	% 44.0	% 23.5	% 1.8

2 生産者モニター（農業者モニター及び漁業者モニター）

(1) 農畜水産物の出荷記録の取組について（農業者モニター及び漁業者モニター）

ア 農畜水産物の「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況（農畜水産物を出荷・販売しているモニター）

区 分	回答者数	全ての「出荷の記録」を保存している	部分的に「出荷の記録」を保存している	「出荷の記録」を保存していない	無回答
	人	%	%	%	%
計	1,401	72.8	18.0	9.2	-
うち、花き・花木、その他の作物を除く	1,348	72.4	18.3	9.3	-
農 業 者	1,115	75.0	18.2	6.8	-
うち、花き・花木、その他の作物を除く	1,062	74.6	18.6	6.8	-
漁 業 者	286	64.3	17.1	18.5	-

イ 「出荷の記録」を保存している理由（複数回答）

（アで「全ての「出荷の記録」を保存している」を回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	経理上の必要性のため	在庫管理のため	出荷・販売経路を事後的に確認するため	農畜水産物の生産量や出荷・販売数量を事後的に確認するため	税法上の必要性のため	食品衛生法への対応のため	食品表示法への対応のため	特に理由がないが保存している	その他	無回答
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
計	1,020	75.9	19.7	41.0	75.3	55.1	9.0	6.5	3.5	11.1	0.6
うち、花き・花木、その他の作物を除く	976	75.4	19.6	40.7	75.4	54.8	9.1	6.6	3.6	11.3	0.5
農 業 者	836	76.9	21.7	42.2	75.5	57.9	10.3	7.5	3.6	12.4	0.7
うち、花き・花木、その他の作物を除く	792	76.4	21.6	41.9	75.6	57.7	10.5	7.7	3.7	12.8	0.6
漁 業 者	184	71.2	10.9	35.3	74.5	42.4	3.3	1.6	3.3	4.9	-

注：「その他」には、米トレーサビリティ法等の制度に対応して記録を保存している者を含む。

ウ 「出荷の記録」を保存していない理由（複数回答）

（アで「部分的に「出荷の記録」を保存している」又は「「出荷の記録」を保存していない」を回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	「出荷の記録」を保存するのは手間がかかるため	伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できないため	伝票類をやりとりせず、農畜水産物を出荷しているため	「出荷の記録」を保存する必要性が認められないため	その他	無回答
	人	%	%	%	%	%	%
計	381	13.9	10.8	46.2	37.0	13.4	0.5
うち、花き・花木、その他の作物を除く	372	14.0	10.8	47.0	36.6	13.4	0.3
農 業 者	279	13.6	9.3	48.7	39.4	14.3	0.4
うち、花き・花木、その他の作物を除く	270	13.7	9.3	50.0	38.9	14.4	-
漁 業 者	102	14.7	14.7	39.2	30.4	10.8	1.0

2 生産者モニター（農業者モニター及び漁業者モニター）（続き）

エ 「出荷の記録」を保存する必要性が認められない理由（複数回答）

ウで「出荷の記録」を保存する必要性が認められない」回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	出荷先が保存しているため	「出荷の記録」を保存するメリットを感じないため	その他	無回答
	人	%	%	%	%
計	141	61.0	35.5	21.3	0.7
うち、花き・花木、その他の作物を除く	136	61.0	33.8	21.3	-
農 業 者	110	61.8	35.5	22.7	0.9
うち、花き・花木、その他の作物を除く	105	61.9	33.3	22.9	-
漁 業 者	31	58.1	35.5	16.1	-

(2) 漁業経営の規模拡大や多角化、付加価値向上等のための取組について（漁業者モニター）

ア 取組の意向

区 分	回答者数	既に規模拡大や多角化、付加価値向上等のための取組を行っている	規模拡大や多角化、付加価値向上等のための取組を行う計画がある又は考えている	特にこれらについて行うことは考えていない	無回答
	人	%	%	%	%
計	295	20.7	21.7	57.6	-

イ 既に取組を行っている漁業者について

(ア) 実施している取組の内容（複数回答）

(アで「既に規模拡大や多角化、付加価値向上等のための取組を行っている」と回答した者のみ回答)

区 分	回答者数	設備投資	他の漁業者との連携	漁業以外の産業との連携	その他	無回答
	人	%	%	%	%	%
計	61	50.8	41.0	39.3	26.2	-

(イ) 漁業以外の産業との連携で実施している取組の内容（複数回答）

((ア)で「漁業以外の産業との連携」と回答した者のみ回答)

区 分	回答者数	直販所やインターネット等を活用した消費者向けの直販	市場を通さない小売業等への直販	輸出による販路拡大	付加価値向上のために不可食部を取り除くなどの水産加工業	遊漁や民宿等の観光業	その他	無回答
	人	%	%	%	%	%	%	%
計	24	45.8	37.5	-	20.8	16.7	16.7	-

ウ 取組を計画している漁業者について

(ア) 取組の計画内容（複数回答）

（アで「規模拡大や多角化、付加価値向上等のための取組を行う計画がある又は考えている」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	設備投資による計画	他の漁業者との連携による計画	漁業以外の産業との連携による計画	その他	無回答
計	人 64	% 45.3	% 18.8	% 15.6	% 17.2	% 3.1

(イ) 漁業以外の産業との連携で取組を考えているか内容（複数回答）

（ウで「漁業以外の産業との連携による計画」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	直販所やインターネット等を活用した消費者向けの直販	市場を通さない小売業等への直販	輸出による販路拡大	付加価値向上のために不可食部を取り除くなどの水産加工業	遊漁や民宿等の観光業	その他	無回答
計	人 10	% 70.0	% 40.0	% 10.0	% 30.0	% 20.0	% 20.0	% -

(3) 今後の漁業に係る所得について（漁業者モニター）

ア 今後の自分の漁業所得の変化について

区 分	回答者数	上がると思う	下がると思う	変わらない	無回答
計	人 295	% 17.6	% 48.8	% 33.6	% -

イ 今後の自分の漁業所得が上がると思う理由（複数回答）

（アで「上がると思う」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	魚価が上がってくと思うから	自分の漁獲量が増えていくと思うから	経費が少なくなっていくと思うから	その他	無回答
計	人 52	% 51.9	% 44.2	% 17.3	% 21.2	% -

ウ 魚価が上がると思う理由（複数回答）

（イで「魚価が上がってくと思うから」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	付加価値向上の取組を行っていくから	漁業者が減ることにより漁獲量が全体的に減っていくと思うから	消費者の魚を食べる量が増えると思うから	輸入量が減ると思うから	水産資源が減ることにより全体の供給も減ると思うから	その他	無回答
計	人 27	% 55.6	% 40.7	% 11.1	% 7.4	% 25.9	% 7.4	% 3.7

エ 自分の漁獲量が増えていくと思う理由（複数回答）

（イで「自分の漁獲量が増えていくと思うから」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	設備投資や規模拡大により、漁獲努力を増やしていくから	漁業者が減ることにより競合相手が減ると思うから	消費者の魚を食べる量が増えると思うから	水産資源が回復していくと思うから	その他	無回答
計	人 23	% 69.6	% 34.8	% 4.3	% 17.4	% 4.3	% -

2 生産者モニター（農業者モニター及び漁業者モニター）（続き）

オ 漁業に係る経費の状況
（漁業に係る経費が上がっているか）

区 分	回答者数	はい	いいえ	無回答
計	人 295	% 92.5	% 7.5	% -

カ 上がっていく経費（複数回答）
（オで「はい」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	雇用労賃	漁船・漁具費	修繕費	油費	販売手数料	減価償却費	その他	無回答
計	人 273	% 35.5	% 90.5	% 79.5	% 67.0	% 28.6	% 12.8	% 7.0	% -

（4）水産エコラベルについて（漁業者モニター）

ア 水産エコラベルの認知度

区 分	回答者数	マーク（言葉）の意味を知っている	マーク（言葉）を見たことがあるが意味を知らない	知らない	無回答
計	人 295	% 9.2	% 18.6	% 72.2	% -

イ 水産エコラベル認証の取得の意向

区 分	回答者数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	既に取得している	無回答
計	人 295	% 9.5	% 11.5	% 36.9	% 40.0	% 1.4	% 0.7

ウ 水産エコラベル認証を取得したい理由（複数回答）
（イで「そう思う」、「ややそう思う」又は「既に取得している」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	他商品との差別化を図ることにより、付加価値の向上を期待できるから	輸出を増大することにより、売上げの向上を期待できるから	生産者/産地等のイメージの向上を期待できるから	水産資源や漁場環境を保全する必要性を消費者に訴えたいから	周りが取得している、又は取得しそうだから	取得することが世界的な流れだから	取引先に取得することを求められるから	その他	無回答
計	人 66	% 69.7	% 21.2	% 68.2	% 53.0	% 3.0	% 4.5	% 1.5	% 6.1	% -

エ 水産エコラベル認証を取得したくない理由（複数回答）
（イで「あまりそう思わない」又は「そう思わない」と回答した者のみ回答）

区 分	回答者数	手続きが面倒だから	費用がかかるから	取得しても売上げが向上するとは思わないから	取得してもイメージが向上するとは思わないから	必要性がないから	周りで取得している人がいないから	そのような制度が嫌いだから	その他	無回答
計	人 227	% 23.3	% 14.1	% 48.9	% 32.2	% 50.7	% 28.2	% 1.3	% 10.6	% 1.8

3 流通加工業者モニター

(1) 食品の入出荷及び製造等の記録の保存の取組について

ア 「入荷の記録」の保存について

(ア) 食品や原材料の「入荷の記録」を一定期間保存する取組状況

区 分	回答者数	全ての「入荷の記録」を保存している	部分的に「入荷の記録」を保存している	「入荷の記録」を保存していない	無回答
計	人 531	% 79.1	% 13.2	% 7.7	% -

(イ) 「入荷の記録」を保存している理由（複数回答）

((ア)で「全ての「入荷の記録」を保存している」と回答した者のみ回答)

区 分	回答者数	経理上の必要性のため	在庫管理のため	入荷経路の事後的に確認するため	食品や原材料の入荷数量を事後的に確認するため	税法上の必要性のため	食品衛生法への対応のため	食品表示法への対応のため	特に理由がないが保存している	その他	無回答
計	人 420	% 85.0	% 60.5	% 50.5	% 58.6	% 32.4	% 31.4	% 31.4	% 3.1	% 1.2	% 2.4

(ウ) 「入荷の記録」を保存していない理由（複数回答）

((ア)で「部分的に「入荷の記録」を保存している」又は「「入荷の記録」を保存していない」と回答した者のみ回答)

区 分	回答者数	「入荷の記録」を保存するのは手間がかかるため	伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できないため	伝票類をやりとりせず、食品又は原材料を取引しているため	「入荷の記録」を保存する必要性が認められないため	その他	無回答
計	人 111	% 12.6	% 27.0	% 24.3	% 47.7	% 16.2	% 2.7

イ 「出荷の記録」の保存について

(ア) 食品の「出荷の記録」を一定期間保存する取組状況

区 分	回答者数	全ての「出荷の記録」を保存している	部分的に「出荷の記録」を保存している	「出荷の記録」を保存していない	無回答
計	人 531 (526)	% 72.9 (73.6)	% 14.9 (15.0)	% 11.3 (11.4)	% 0.9

注：（）内の値は、「無回答」の者を除いた人数を100.0とした割合である。（以下（3）について同じ。）

3 流通加工業者モニター（続き）

- (イ) 「出荷の記録」を保存している理由（複数回答）
((ア)で「全ての「出荷の記録」を保存している」と回答した者のみ回答)

区 分	回答者数	経理上の必要性のため	在庫管理のため	出荷・販売経路の事後的に確認するため	食品の出荷・販売数量を事後的に確認するため	税法上の必要性のため	食品衛生法への対応のため	食品表示法への対応のため	特に理由がないが保存している	その他	無回答
計	人 387	% 83.5	% 54.3	% 60.5	% 64.6	% 33.6	% 33.1	% 25.8	% 1.6	% 3.4	% 1.6

- (ウ) 「出荷の記録」を保存していない理由（複数回答）
((ア)で「部分的に「出荷の記録」を保存している」又は「「出荷の記録」を保存していない」と回答した者のみ回答)

区 分	回答者数	「出荷の記録」を保存するのは手間がかかるため	伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できないため	伝票類をやりとりせず、食品を取引しているため	「出荷の記録」を保存する必要性が認められないため	その他	無回答
計	人 139	% 12.2	% 15.1	% 33.1	% 40.3	% 23.7	% 1.4

ウ 「内部トレーサビリティ」の取組について

- (ア) 「内部トレーサビリティ」の取組状況

区 分	回答者数	全ての食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施している	一部の食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施している	「内部トレーサビリティ」の取組を実施していない	無回答
計	人 531 (528)	% 44.3 (44.5)	% 18.5 (18.6)	% 36.7 (36.9)	% 0.6

- (イ) 「内部トレーサビリティ」の取組を実施している理由（複数回答）
((ア)で「全ての食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施している」と回答した者のみ回答)

区 分	回答者数	食品の回収、クレーム等の問題に対応するため	食品関連事業者としての社会的責任を果たすため	取引先から要求されたため	ISOなどの民間規格の認証を取得するため	人為ミス防止等のため導入したシステムが活用可能であったため	特に理由はないが保存している	その他	無回答
計	人 235	% 83.0	% 74.0	% 27.7	% 11.9	% 17.0	% 2.6	% 3.8	% 3.4

- (ウ) 「内部トレーサビリティ」の取組を実施していない理由（複数回答）
((ア)で「一部の食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施している」又は「「内部トレーサビリティ」の取組を実施していない」と回答した者のみ回答)

区 分	回答者数	作業量が増加するため	新たな投資が必要になるため	記録を保存する場所を確保できないため	取組を実施しても食の安全性は高まらないため	取引先からの要望がなかったため	取り組む必要性が認められないため	具体的に何をすればよいか分からないため	その他	無回答
計	人 293	% 33.4	% 14.0	% 5.1	% 4.1	% 26.3	% 38.2	% 25.9	% 13.7	% 2.0

(2) 水産物の取り扱いについて

ア 水産物の取り扱い状況

区 分	回答者数	取り扱っている	取り扱っていない	無回答
計	人 531	% 44.3	% 55.4	% 0.4

イ 今後の国内の魚介類の消費量

(アで「取り扱っている」と回答した者のみ回答)

区 分	回答者数	増えると思う	減ると思う	変わらない	無回答
計	人 235	% 14.5	% 65.5	% 20.0	% -

ウ 魚介類の消費拡大のための取組

(アで「取り扱っている」と回答した者のみ回答)

区 分	回答者数	はい	いいえ	無回答
計	人 235	% 37.4	% 62.6	% -

エ 水産エコラベル

(ア) 水産エコラベルの認知度

(アで「取り扱っている」と回答した者のみ回答)

	回答者数	マーク（言葉）の意味を知っている	マーク（言葉）を見たことはあるが意味は知らない	知らない	無回答
計	人 235	% 17.9	% 20.9	% 60.9	% 0.4

(イ) 水産エコラベル認証の取得の意向

(アで「取り扱っている」と回答した者のみ回答)

区 分	回答者数	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	既に取得している	無回答
計	人 235	% 11.1	% 20.0	% 31.1	% 36.2	% 1.7	% -

(ウ) 水産エコラベル認証を取得したい理由（複数回答）

((イ)で「そう思う」、「ややそう思う」又は「既に取得している」と回答した者のみ回答)

区 分	回答者数	他商品との差別化を図ることにより、付加価値の向上を期待できるから	輸出を増大することにより、売上げの向上を期待できるから	会社のイメージが上がることを期待できるから	水産資源や漁場環境を保全する必要を消費者に訴えたいから	周りが取得している、もしくは取得しそうだから	取得することが世界的な流れだから	取引先に取得することを求められているから	その他	無回答
計	人 77	% 68.8	% 10.4	% 37.7	% 58.4	% 5.2	% 3.9	% 3.9	% 3.9	% 5.2

(エ) 水産エコラベル認証を取得したくない理由（複数回答）

((イ)で「あまりそう思わない」又は「そう思わない」と回答した者のみ回答)

区 分	回答者数	手続きが面倒だから	費用がかかるから	取得しても売上げが向上するとは思わないから	取得してもイメージが向上するとは思わないから	必要性がないから	周りで取得している人がいないから	そのような制度が嫌いだから	その他	無回答
計	人 158	% 9.5	% 9.5	% 21.5	% 13.9	% 61.4	% 13.3	% 1.3	% 19.6	% 3.2

【調査事項】

＜消費者モニター用＞

【魚介類を食べることについて】

問 1 全員の方にお聞きします。

あなたは魚介類を食べるのが好きですか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 好き
- 2 どちらかといえば好き
- 3 どちらともいえない
- 4 どちらかといえば嫌い
- 5 嫌い

問 2 全員の方にお聞きします。

魚介類を食べる頻度はどれくらいですか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | |
|--------------|-----|-----------|
| 1 ほぼ毎日 | } | 問 2-(1) へ |
| 2 週に 4 ～ 5 日 | | |
| 3 週に 2 ～ 3 日 | | |
| 4 週に 1 日 | | |
| 5 月に 1 ～ 2 日 | □ → | 問 2-(2) へ |
| 6 ほとんど食べない | | |

問 2-(1) 問 2 で「1」～「4」を選択した方にお聞きします。

あなたが魚介類をよく食べる理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 美味しいから

- 2 健康に良いから
- 3 安いから
- 4 家族（大人）が好きだから
- 5 子供が好きだから
- 6 鮮度や品質の良い魚介類が入手しやすいから
- 7 バリエティに富んでいるから
- 8 食べやすいから
- 9 季節感や旬を楽しめるから
- 10 地域の特色を感じることができるから
- 11 調理が簡単だから
- 12 調理が楽しいから、作りがいがあるから
- 13 豪華な感じがするから
- 14 ご飯と良く合うから
- 15 お酒に良く合うから
- 16 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

問2-(1)a 問2で「1」～「4」を選択した方にお聞きします。

問2-(1)の選択肢以外で、国産魚介類を食べることによって、どのようなことにつながるとお考えですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を解答用紙に記入してください。

- | | | |
|---|---|-----|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 国産魚介類を食べることによって水産業が維持され、
漁村地域の雇用が確保される 2 国内水産業が維持されることで食料安全保障につながる 3 持続可能な資源の利用をしている国産魚介類を食べることで
環境保全につながる 4 その他（具体的に回答用紙に記入してください。） 5 ない | } | 問3へ |
|---|---|-----|

問2-(2) 問2で「5」又は「6」を選択した方にお聞きします。

あなたが魚介類をあまり食べない理由は何ですか。該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 美味しいと思わないから
- 2 健康に良いと思わないから
- 3 高いから
- 4 家族（大人）が嫌いだから
- 5 子供が嫌いだから

- 6 鮮度や品質の良い魚介類が入手しにくいから
- 7 食べにくいから
- 8 調理が難しい・面倒だから
- 9 ボリュームのあるおかずが作りづらいから
- 10 鮮度が悪くなりやすく、保存しにくいから
- 11 生ゴミの処理等片付けが面倒だから
- 12 料理の際の臭いや煙が気になるから
- 13 豪華な感じがしないから
- 14 ご飯とあまり合わないから
- 15 お酒にあまり合わないから
- 16 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

問3 全員の方にお聞きします。

子供の頃、あなたの魚介類を食べる頻度はどれくらいでしたか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 ほぼ毎日
- 2 週に4～5日
- 3 週に2～3日
- 4 週に1日
- 5 月に1～2日
- 6 ほとんど食べない

問4 全員の方にお聞きします。

現在、魚介類を食べる量は、子供の頃と比較し変化しましたか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を解答用紙に記入してください。

- | | | |
|---------|-------|---------|
| 1 増えた | ————→ | 問4-(1)へ |
| 2 変わらない | ————→ | 問5へ |
| 3 減った | ————→ | 問4-(2)へ |

問4-(1) 問4で「1」と回答した方にお聞きします。

食べる量が増えたきっかけや理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 美味しいと思うようになったから
- 2 健康に気を遣うようになったから

}

- 3 価格が安くなったと感じるから
- 4 家族（大人）が好きだから
- 5 子どもが好きだから
- 6 鮮度や品質の良い魚介類が入手しやすいから
- 7 バリエティに富んでいると感じるから
- 8 食べやすいと感じるようになったから
- 9 季節感や旬を楽しめると思うようになったから
- 10 地域の特色を感じることができると思うようになったから
- 11 調理が簡単だから
- 12 調理が楽しいから、作りがいがあるから
- 13 豪華な感じがするから
- 14 ご飯と良く合うと思うようになったから
- 15 お酒に良く合うから
- 16 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

問5へ

問4-(2) 問4で「3」と回答した方にお聞きします。

食べる量が減ったきっかけがあれば教えてください。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 美味しくないと思うようになりから
- 2 健康に気を遣うようになったから
- 3 価格が高くなったと感じるから
- 4 家族（大人）が嫌いだから
- 5 子供が嫌いだから
- 6 鮮度や品質の良い魚介類が入手しにくくなったと感じるから
- 7 食べにくいと感じるようになったから
- 8 調理が難しい・面倒だから
- 9 ボリュームのあるおかずが作りづらいから
- 10 鮮度が悪くなりやすく、保存しにくいから
- 11 生ゴミの処理等片付けが面倒だから
- 12 料理の際の臭いや煙が気になるから
- 13 豪華な感じがしないから
- 14 ご飯とあまり合わないと思うようになったから
- 15 お酒にあまり合わないから
- 16 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

【Fast Fish（ファストフィッシュ）について】

問5 全員の方にお聞きします。

あなたは「Fast Fish（ファストフィッシュ）」を知っていますか。
該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | |
|---------------|--------|---------|
| 1 知っている | —————→ | 問5-(1)へ |
| 2 言葉をきいたことはある | } | 問5-(2)へ |
| 3 知らない | | |

※Fast Fish（ファストフィッシュ）とは、手軽・気軽においしく水産物を食べる
ことのできる商品や食べ方のことで、魚食普及を目指す官民協働の取組「魚の国のしあ
わせ」プロジェクトの一環として選定され、市販されています。

Fast Fishロゴマーク



問5-(1) 問5で「1」を選択した方にお聞きします。

Fast Fish（ファストフィッシュ）商品を購入する頻度はどれくらいですか。
該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | |
|------------|--------|----------|
| 1 月に複数回 | } | 問5-(1)aへ |
| 2 月に1回程度 | | |
| 3 2～3ヶ月に1回 | | |
| 4 半年に1回程度便 | | |
| 5 年に1回以下 | | |
| 6 購入していない | —————→ | 問5-(1)bへ |

問5-(1)a 問5-(1)で「1」～「5」を選択した方にお聞きします。

Fast Fish（ファストフィッシュ）商品の用途は何ですか。
該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | |
|---------------------------|---|-----|
| 1 ご飯のおかず | } | 問6へ |
| 2 お弁当のおかず | | |
| 3 お酒のおつまみ | | |
| 4 おやつ | | |
| 5 その他（具体的に回答用紙に記入してください。） | | |

問5-(1)b 問5-(1)で「6」を選択した方にお聞きします。

Fast Fish（ファストフィッシュ）商品を購入しない理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | |
|---|---|-----|
| <ul style="list-style-type: none">1 値段が高いから2 美味しそうなものがないから3 魚介類が嫌いだから4 魚介類に限らず調理済み商品を買わないから5 魚介類は自分で調理して食べたいから6 調理に手を抜いていると思われるから7 店頭で見かけないから8 その他（具体的に回答用紙に記入してください。） | } | 問6へ |
|---|---|-----|

問5-(2) 問5で「2」又は「3」を選択した方にお聞きします。

Fast Fish（ファストフィッシュ）商品を購入したいと思いますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 積極的に買いたい
- 2 機会があれば買いたい
- 3 買いたくない

【水産エコラベルについて】

問6 全員の方にお聞きします。

あなたは水産エコラベルを知っていますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 マーク（言葉）の意味を知っている
- 2 マーク（言葉）を見たことがあるが意味は知らない
- 3 知らない

※水産エコラベルとは、生態系を考慮し、持続的な生産を行っている漁業・養殖業を第三者機関が認証するものです。（品質や安全性を保証するものではありません。）



MSCエコラベル
(海洋管理協議会 MSC)



マリン・エコラベル
(MELジャパン)



ASCマーク
(水産養殖管理協議会 ASC)



養殖エコラベル
(日本食育者協会 AEL)

問7 全員の方にお聞きします。

同じ食材に対し水産エコラベルが添付されているものと添付されていないものがあつた場合、水産エコラベルが添付されている方を購入しますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 価格が1割以上高くても水産エコラベルが添付されている方を買う
- 2 価格が1割未満高いのであれば水産エコラベルが添付されている方を買う
- 3 価格が同程度ならば水産エコラベルが添付されている方を買う
- 4 水産エコラベルを購入の判断材料とはしない

<農業者モニター用>

【農畜産物の出荷記録の保存の取組について】

問1 農畜産物を出荷・販売している方にお聞きします。

あなたは、出荷した農畜産物の「出荷日、出荷先（組合又は事業者）名、品名、数量」が記載された「出荷の記録」※を一定期間保存する取組をしていますか。

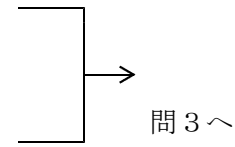
該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

※ 「出荷の記録」については、消費者に販売された場合は、「販売日、品名、数量」が記載された記録で構いません。

また、「出荷の記録」の保存は、帳簿等へ記入したりパソコン上に電子データで保存するほか、出荷先に提出した納品書の控え、市場等から受け取った仕切書、消費者へ発行したレシートの控えなどを保存しておくことでも構いません。

- 1 全ての「出荷の記録」を保存している
- 2 部分的に「出荷の記録」を保存している
(一部の出荷先の記録又は「出荷日又は販売日、出荷
先名、品名、数量」の一部の記録を保存している)
- 3 「出荷の記録」を保存していない

————→ 問 2 へ



問 2 問 1 で「1」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」を保存している理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

※ 米トレーサビリティ法等の制度に対応して記録を保存している方は、「9 その他」に「制度への対応」と記入してください。

- 1 経理上の必要性のため
- 2 在庫管理のため
- 3 出荷・販売経路を事後的に確認するため
- 4 農畜産物の生産量や出荷・販売数量を事後的に確認するため
- 5 税法上の必要性のため
- 6 食品衛生法への対応のため
- 7 食品表示法への対応のため
- 8 特に理由はないが保存している
- 9 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

問 3 問 1 で「2」又は「3」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」の一部又は全部を保存していない理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 「出荷の記録」を保存するのは手間がかかるため
〔よろしければ、どのようなことに手間がかかるのかを具体的に
回答用紙に記入してください。〕
- 2 伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できないため
- 3 伝票類をやりとりせず、農畜産物を出荷しているため
- 4 「出荷の記録」を保存する必要性が認められないため
- 5 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

————→ 問 4 へ

問 4 問 3 で「4」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」を保存する必要性が認められない理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 出荷先が保存しているため
- 2 「出荷の記録」を保存するメリットを感じないため
- 3 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

＜漁業者モニター用＞

【経営の規模拡大や多角化、付加価値向上等の取組】

問 1 全員の方にお聞きします。

経営の規模拡大や多角化、付加価値向上等のための取組を行う計画はありますか。
該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 既に規模拡大や多角化、付加価値向上等のための取組を 行っている → 問 1-(1) へ
- 2 規模拡大や多角化、付加価値向上等のための取組を行う 計画がある又は考えている → 問 1-(2) へ
- 3 特にこれらについて行うことは考えていない → 問 2 へ

問 1-(1) 問 1 で「1」を選択した方にお聞きします。

どのような取組を実施していますか。
該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 設備投資
- 2 他の漁業者との連携
- 3 漁業以外の産業との連携
- 4 その他(具体的に回答用紙に記入してください)

問 1-(1)a 問 1-(1) で「2」を選択した方にお聞きします。

他の漁業者との連携による取組を実施するに当たってどのような課題がありましたか。

回答用紙に具体的に記入してください。 → 問 2 へ

問 1-(1)b 問 1-(1)で「3」を選択した方にお聞きします。

どのような取組を実施していますか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | |
|-------------------------------|---|-------|
| 1 直販所やインターネット等を活用した消費者向けの直販 | } | 問 2 へ |
| 2 市場を通さない小売業等への直販 | | |
| 3 輸出による販路拡大 | | |
| 4 付加価値向上のために不可食部を取り除くなどの水産加工業 | | |
| 5 遊漁や民宿等の観光業 | | |
| 6 その他(具体的に回答用紙に記入してください。) | | |

問 1-(2) 問 1で「2」を選択した方にお聞きします。

どのような計画を考えていますか。

該当する選択肢を 1 つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | |
|---------------------------|----------------|
| 1 設備投資による計画 | ——→ 問 2 へ |
| 2 他の漁業者との連携による計画 | ——→ 問 1-(2)a へ |
| 3 漁業以外の産業との連携による計画 | ——→ 問 1-(2)b へ |
| 4 その他(具体的に回答用紙に記入してください。) | ——→ 問 2 へ |

問 1-(2)a 問 1-(2)で「2」を選択した方にお聞きします。

他の漁業者との連携による計画を実施するに当たって、どのような課題がありますか。

回答用紙に具体的に記入してください。 ——→ 問 2 へ

問 1-(2)b 問 1-(2)で「3」を選択した方にお聞きします。

どのような取組を考えていますか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 直販所やインターネット等を活用した消費者向けの直販
- 2 市場を通さない小売業等への直販
- 3 輸出による販路拡大
- 4 付加価値向上のために不可食部を取り除くなどの水産加工業
- 5 遊漁や民宿等の観光業
- 6 その他 (具体的に回答用紙に記入してください。)

【今後の漁業に係る所得について】

問 2 全員の方にお聞きします。

今後、漁業に係るあなたの所得はどのように変化すると思いますか。
該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | |
|----------|-----------------|
| 1 上がると思う | ————→ 問 2-(1) へ |
| 2 下がると思う | ————→ 問 3 へ |
| 3 変わらない | ————→ 問 3 へ |

問 2-(1) 問 2 で「1」を選択した方にお聞きします。

所得が上がる理由は何だと思いませんか。
該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 魚価が上がっていくと思うから
- 2 自分の漁獲量が増えていくと思うから
- 3 経費が少なくなっていくと思うから
- 4 その他(具体的に解答用紙に記入してください。)

問 2-(1)a 問 2-(1) で「1」を選択した方にお聞きします。

魚価が上がっていく理由は何だと思いませんか。
該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | |
|---|---|-------|
| <ol style="list-style-type: none">1 付加価値向上の取組を行っていくから2 漁業者が減ることにより漁獲量が全体的に減っていくと思うから3 消費者の魚を食べる量が増えると思うから4 輸入量が減ると思うから5 水産資源が減ることにより全体の供給も減ると思うから6 その他(具体的に解答用紙に記入してください。) | } | 問 3 へ |
|---|---|-------|

問 2-(2) 問 2-(1) で「2」を選択した方にお聞きします。

あなたの漁獲量が増えていく理由は何だと思いませんか。
該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 設備投資や規模拡大により、漁獲努力を増やしていくから
- 2 漁業者が減ることにより競合相手が減ると思うから
- 3 消費者の魚を食べる量が増えると思うから

主な水産エコラベル：



MSCエコラベル
(海洋管理協議会 MSC)



マリン・エコラベル
(MELジャパン)



ASCマーク
(水産養殖管理協議会 ASC)



養殖エコラベル
(日本食育者協会 AEL)

問5 全員の方にお聞きします。

今後、水産エコラベル認証を取得したいと思いますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | | |
|---|-----------|--------------------------|-----------|
| 1 | そう思う | ☐ | → 問5-(1)へ |
| 2 | ややそう思う | ☐ | |
| 3 | あまりそう思わない | ☐ | → 問5-(2)へ |
| 4 | そう思わない | ☐ | |
| 5 | 既に取得している | ☐ | → 問5-(1)へ |

問5-(1) 問5で「1」、「2」又は「5」を選択した方にお聞きします。

水産エコラベルを取得したいと思う理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | |
|---|----------------------------------|-------|
| 1 | 他商品との差別化を図ることにより、付加価値の向上を期待できるから | } 問6へ |
| 2 | 輸出を増大することにより、売上げの向上を期待できるから | |
| 3 | 生産者/産地等のイメージの向上を期待できるから | |
| 4 | 水産資源や漁場環境を保全する必要性を消費者に訴えたいから | |
| 5 | 周りが取得している、又は取得しそうだから | |
| 6 | 取得することが世界的な流れだから | |
| 7 | 取引先に取得することを求められるから | |
| 8 | その他（具体的に回答用紙に記入してください。） | |

問5-(2) 問5で「3」又は「4」を選択した方にお聞きします。

水産エコラベルを取得したいと思わない理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 手続きが面倒だから

- 2 費用がかかるから
- 3 取得しても売上げが向上するとは思わないから
- 4 取得してもイメージが向上するとは思わないから
- 5 必要性がないから
- 6 周りで取得している人がいないから
- 7 そのような制度が嫌いだから
- 8 その他（具体的に回答紙に記入してください。）

【水産物の出荷記録の保存の取組について】

問 6 水産物を出荷・販売している方にお聞きします。

あなたは、出荷した水産物の「出荷日、出荷先（組合又は事業者）名、品名、数量」が記載された「出荷の記録」※を一定期間保存する取組をしていますか。
該当する選択肢を 1 つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

※ 「出荷の記録」については、消費者に販売された場合は、「販売日、品名、数量」が記載された記録で構いません。

また、「出荷の記録」の保存は、帳簿等へ記入したりパソコン上に電子データで保存するほか、出荷先に提出した納品書の控え、市場等から受け取った仕切書、消費者へ発行したレシートの控えなどを保存しておくことでも構いません。

- 1 全ての「出荷の記録」を保存している
- 2 部分的に「出荷の記録」を保存している
（一部の出荷先の記録又は「出荷日又は販売日、出荷先名、品名、数量」の一部の記録を保存している）
- 3 「出荷の記録」を保存していない

————→ 問 6 - (1) へ

┌————→ 問 6 - (2) へ
└

問 6 - (1) 問 6 で「1」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」を保存している理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 経理上の必要性のため
- 2 在庫管理のため
- 3 出荷・販売経路を事後的に確認するため
- 4 水産物の漁獲高や出荷・販売数量を事後的に確認するため
- 5 税法上の必要性のため
- 6 食品衛生法への対応のため

- 7 食品表示法への対応のため
- 8 特に理由はないが保存している
- 9 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

問6-(2) 問6で「2」又は「3」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」の一部又は全部を保存していない理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 「出荷の記録」を保存するのは手間がかかるため
〔よろしければ、どのようなことに手間がかかるのかを具体的に
回答用紙に記入してください。〕
- 2 伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できないため
- 3 伝票類をやりとりせず、水産物を出荷しているため
- 4 「出荷の記録」を保存する必要性が認められないため → 問6-(3)へ
- 5 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕 問7-(2)へ

問6-(3) 問6-(2)で「4」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」を保存する必要性が認められない理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 出荷先事業者が保存しているため
- 2 「出荷の記録」を保存するメリットを感じないため
- 3 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

<流通加工業者モニター用>

【入荷の記録の保存について】

問1 全員の方にお聞きします。

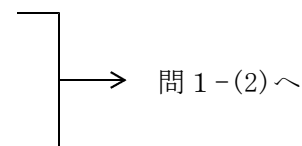
貴社は、入荷した食品又は原材料の「入荷日、入荷先事業者名、品名、数量」が記載された「入荷の記録」※を一定期間保存する取組をしていますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

※ 「入荷の記録」の保存は、帳簿等への記入やパソコン上に電子データで保存するほか、入荷先事業者から提供される納品伝票や運送業者が発行する送り状などを保存することでも構いません。

- 1 全ての「入荷の記録」を保存している → 問1-(1)へ

- 2 部分的に「入荷の記録」を保存している
(一部の入荷先の記録又は「入荷日、入荷先業者名、
品名、数量」の一部の記録を保存している)
- 3 「入荷の記録」を保存していない



問 1-(1) 問 1 で「1」を選択した方にお聞きします。

「入荷の記録」を保存している理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 経理上の必要性のため
- 2 在庫管理のため
- 3 入荷経路を事後的に確認するため
- 4 食品や原材料の入荷数量を事後的に確認するため
- 5 税法上の必要性のため
- 6 食品衛生法への対応のため
- 7 食品表示法への対応のため
- 8 特に理由はないが保存している
- 9 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕



問 1-(2) 問 1 で「2」又は「3」を選択した方にお聞きします。

「入荷の記録」の一部又は全部を保存していない理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 「入荷の記録」を保存するのは手間がかかるため
〔よろしければ、どのようなことに手間がかかるのかを具体的に
回答用紙に記入してください。〕
- 2 伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できないため
- 3 伝票類をやりとりせず、食品又は原材料を取引しているため
- 4 「入荷の記録」を保存する必要性が認められないため
- 5 その他〔具体的に回答用紙に記入してください〕

【出荷の記録の保存について】

問 2 全員の方にお聞きします。

貴社は、出荷した食品について、次の記録が記載された「出荷の記録」※を一定期間保存する取組をしていますか。

- ・ 事業者への出荷の場合：「出荷日、出荷先事業者名、品名、数量」

・ 消費者への販売・提供の場合：「販売・提供日、品名、数量」
該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

※ 「出荷の記録」の保存は、帳簿等への記入やパソコン上に電子データで保存するほか、出荷先事業者へ提供した納品伝票の控えや消費者へ提供したレシートなどを保存することでも構いません。

- | | | |
|---|---|---------|
| 1 全ての「出荷の記録」を保存している | → | 問2-(1)へ |
| 2 部分的に「出荷の記録」を保存している
(一部の出荷先の記録又は「出荷日又は販売・提供日、出荷先事業者名、品名、数量」の一部の記録を保存している) | → | 問2-(2)へ |
| 3 「出荷の記録」を保存していない | | |

問2-(1) 問2で「1」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」を保存している理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | |
|---------------------------|-------|
| 1 経理上の必要性のため | } 問3へ |
| 2 在庫管理のため | |
| 3 出荷・販売経路を事後的に確認するため | |
| 4 食品の出荷・販売数量等を事後的に確認するため | |
| 5 税法上の必要性のため | |
| 6 食品衛生法への対応のため | |
| 7 食品表示法への対応のため | |
| 8 特に理由はないが保存している | |
| 9 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕 | |

問2-(2) 問2で「2」又は「3」を選択した方にお聞きします。

「出荷の記録」の一部又は全部を保存していない理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 「出荷の記録」を保存するのは手間がかかるため
〔よろしければ、どのようなことに手間がかかるのかを具体的に回答用紙に記入してください。〕
- 2 伝票類の量が多く、それを保存する場所が確保できないため
- 3 伝票類をやりとりせず、食品を取引しているため
- 4 「出荷の記録」を保存する必要性が認められないため
- 5 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

【内部トレーサビリティの取組について】

問3 全員の方にお聞きします。

貴社では、食品の事後的な追跡可能性を高めるため、「入荷した食品の特定のロット」と「出荷した食品の特定のロット」を対応付ける記録を保存する取組（以下、「内部トレーサビリティ」※という。）をしていますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

※ 「内部トレーサビリティ」の記録とは、例えば、入荷した原料をどの製品に使用し、どこに出荷したか、また、販売した商品は、いつどこから入荷した商品か等が把握できる記録を言います。

なお、消費者に直接販売・提供した場合は、「販売・提供の記録」との対応付けで良く、消費者個々との対応付けまでは必要ありません。

また、記録の保存方法は、帳簿等への記入やパソコン上に電子データで保存するほか、入出荷伝票と合わせて作業日報等を保存することでも構いません。

- | | |
|--------------------------------|-----------|
| 1 全ての食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施している | → 問3-(1)へ |
| 2 一部の食品で「内部トレーサビリティ」の取組を実施している | } 問3-(2)へ |
| 3 「内部トレーサビリティ」の取組を実施していない | |

問3-(1) 問3で「1」を選択した方にお聞きします。

「内部トレーサビリティ」の取組をしている理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | |
|---------------------------------|-------|
| 1 食品の回収、クレーム等の問題に対応するため | } 問4へ |
| 2 食品関連事業者としての社会的責任を果たすため | |
| 3 取引先から要求されたため | |
| 4 ISOなど民間規格の認証を取得するため | |
| 5 人為ミス防止等のため導入したシステムが活用可能であったため | |
| 6 特に理由はないが保存している | |
| 7 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕 | |

問3-(2) 問3で「2」又は「3」を選択した方にお聞きします。

「内部トレーサビリティ」の取組をしていない理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 作業量が増加するため

- 2 新たな投資が必要になるため
- 3 記録を保存する場所を確保できないため
- 4 取組を実施しても食の安全性は高まらないため
- 5 取引先からの要望がないため
- 6 取り組む必要性が認められないため
- 7 具体的に何をすればよいか分からないため
- 8 その他〔具体的に回答用紙に記入してください。〕

【水産物の取り扱いについて】

問4 全員の方にお聞きします。

水産物を取り扱っていますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 取り扱っている —————→ 問5へ
- 2 取り扱っていない

水産物を取り扱っていない方は、これで終わりです。ありがとうございました。

以下の質問は、水産物を取り扱っている方（問4で「1」を選択した方）のみ
ご回答ください。

問5 全員の方にお聞きします。

今後、国内の魚介類の消費量はどのように変化すると思いますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を記入してください。

- 1 増えると思う
- 2 減ると思う
- 3 変わらない

問6 全員の方にお聞きします。

現在、魚介類の消費拡大のために取り組んでいることはありますか。

該当する選択肢を1つ選択し、その番号を記入してください。

- 1 はい → 問6-(1)へ
2 いいえ → 問7へ

問 6-(1) 問 6 で「1」を選択した人にお聞きします。
どのような取組を行っていますか。
解答用紙に具体的に記入してください。

【水産エコラベルについて】

問 7 全員の方にお聞きします。
あなたは水産エコラベルを知っていますか。
該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

※ 水産エコラベルとは、生態系を考慮し、持続的な生産を行っている漁業・養殖業を第三者機関が認証するものです。（品質や安全性を保証するものではありません。）

- 1 マーク（言葉）の意味を知っている
- 2 マーク（言葉）を見たことはあるが意味は知らない
- 3 知らない

主な水産エコラベル：



MSC エコラベル
(海洋管理協議会 MSC)



マリン・エコラベル
(MEL ジャパン)



ASC マーク
(水産養殖管理協議会 ASC)



養殖エコラベル
(日本食育者協会 AEL)

問 8 全員の方にお聞きします。
今後、水産エコラベル認証を取得したいと思いますか。
該当する選択肢を1つ選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- | | | | |
|---|-----------|--------------------------|-----------|
| 1 | そう思う | ☐ | → 問8-(1)へ |
| 2 | ややそう思う | ☐ | |
| 3 | あまりそう思わない | ☐ | → 問8-(2)へ |
| 4 | そう思わない | ☐ | |
| 5 | 既に取得している | ☐ | → 問8-(1)へ |

問8-(1) 問8で「1」、「2」又は「5」を選択した方にお聞きします。

水産エコラベルを取得したい（取得した）理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 他商品との差別化を図ることにより、付加価値の向上を期待できるから
- 2 輸出を増大することにより、売上げの向上を期待できるから
- 3 会社のイメージが上がることを期待できるから
- 4 水産資源や漁場環境を保全する必要性を消費者に訴えたいから
- 5 周りが取得している、もしくは取得しそうだから
- 6 取得することが世界的な流れだから
- 7 取引先に取得することを求められるから
- 8 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

問8-(2) 問8で「3」又は「4」を選択した方にお聞きします。

水産エコラベルを取得したいと思わない理由は何ですか。

該当する選択肢を全て選択し、その番号を回答用紙に記入してください。

- 1 手続きが面倒だから
- 2 費用がかかるから
- 3 取得しても売上げが向上するとは思わないから
- 4 取得してもイメージが向上するとは思わないから
- 5 必要性がないから
- 6 周りで取得している人がいないから
- 7 そのような制度が嫌いだから
- 8 その他（具体的に回答用紙に記入してください。）

【調査の概要】

1 調査の目的

農業従事者の減少、高齢化等が進行する中で、農政を改革し、国内農業の活性化を図っていくことは重要な課題である。また、水産業についても、漁業就業者の高齢化、水産物消費量の減少等多くの課題に直面している。

このため、「攻めの農林水産業」を展開する中で、農林水産業を産業として強くしていく取組とともに、多面的機能の発揮を図る取組の両者を一体的に推進しているところである。

このような中、農林水産業の活性化を図り、食料の安定供給を実現するため、国民の皆様は農林水産業の現状や施策の方向性について理解いただき、国民全体で農業・農村や水産業・漁村を支える社会の構築に向けて、今後の施策の企画・立案の参考とすることを目的として実施するものである。

2 調査の対象

全国の農林水産情報交流モニターのうち、農業者モニター、漁業者モニター、流通加工業者モニター（木材関係除く。）及び消費者モニターを対象とした。

（参考）

農林水産情報交流モニターとは、農林水産行政に対する意見・要望を把握することを目的として、広く国民から以下の区分ごとに公募等により選ばれた方である。

※モニターの区分及び条件

生産者モニター

農業者モニター：農業経営体の経営者

林業者モニター：林業経営体の経営者

漁業者モニター：漁業経営体のうち、個人経営体の経営者

流通加工業者モニター：食品製造、食品卸売、食品小売、外食産業及び木材関係の経営に携わっている者

消費者モニター：農林水産行政に関心がある20歳以上の者

3 調査の内容

漁業の経営規模拡大や多角化、付加価値向上等の取組に関する意向、水産物の消費等に関する意向、農畜水産物及び食品の入出荷記録の保存の取組状況等

4 調査時期

本調査は、平成28年12月下旬から平成29年1月中旬までの間に実施した。

5 調査方法

オンライン調査及び郵送調査の2種類とし、農業者モニターに対しては、オンライン調査又は郵送調査のいずれかを選択できる方法とし、流通加工業者モニター及び消費者モニターに対しては、メールアドレスを登録している者にはオンライン調査を、その他の者に対しては郵送調査を実施した。

6 調査対象者数及び回収率

区 分	対象者数（人）	回答者数（人）	回収率（％）
生産者モニター	1,618	1,410	87.1
農業者モニター	1,269	1,115	87.9
漁業者モニター	349	295	84.5
流通加工業者モニター （木材関係除く。）	707	531	75.1
消費者モニター	987	889	90.1

7 集計方法

各項目とも、単純集計により集計した。

8 利用上の注意

- (1) 図中の人数及び統計表の各回答者数は、各設問の有効回答者数である。
- (2) 各回答率は、各設問（各区分）の回答者数計を100.0とする割合である。
- (3) 表示単位未満を四捨五入したため、計と内訳の積み上げ値は必ずしも一致しない場合がある。
- (4) 統計表に使用した記号「－」は、該当する選択肢を選んだ回答者がいないことを表す。
- (5) この統計表に掲載された数値を他に転載する場合は、「食料・農業及び水産業に関する意識・意向調査」（農林水産省）による旨を記載してください。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果の分野別分類は「農林水産行政等に対する意識・意向調査」に分類しています。

お問合わせ先

◎本調査結果について

・「入出荷記録の保存の取組」

農林水産省 消費・安全局

消費者行政課 トレーサビリティ企画調整班

電 話：(代表) 03-3502-8111 内線：4550

(直通) 03-3502-5716

F A X： 03-6744-1974

・「魚介類を食べること」、「ファストフィッシュ」、「経営の規模拡大や多角化、付加価値向上等の取組」、「今後の漁業に係る所得」、「水産エコラベル」

水産庁 漁政部 企画課 動向分析班

電 話：(代表) 03-3502-8111 内線：6578

(直通) 03-6744-2344

F A X： 03-3501-5097

◎農林水産情報交流ネットワーク事業について

農林水産省 大臣官房 統計部

統計企画管理官 統計企画班 モニター係

電 話：(代表) 03-3502-8111 内線：3580

(直通) 03-3502-5631

F A X： 03-3501-9644

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房 統計部

統計企画管理官 広報普及班

電 話：(代表) 03-3502-8111 内線：3589

(直通) 03-6744-2037

F A X： 03-3501-9644